

平成22年度

紀要



仙台市中学校長会

目 次

巻頭言	・ ・ ・ ・ 仙台市中学校長会長 高 橋 泰	1
平成22年度仙台市中学校長会活動方針	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	2
1 各部の活動概要		
(1) 総務部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	3
(2) 研究部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	4
(3) 教育課題部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	5
(4) 研修部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	6
(5) 人事部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	7
(6) 情報部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	8
(7) 行財政部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	9
(8) 生徒指導部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	10
2 研究調査等報告		
(1) 研究部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1～12
(2) 教育課題部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1～7
(3) 人事部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1～6
(4) 行財政部	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1



<巻頭言>

私たちの『学校からの教育改革』元年

仙台市中学校長会長 高橋 泰

1 22年度の課題（総会挨拶から）

これからは、全日本中学校長会が全日中教育ビジョンとして提言している『学校からの教育改革』を視野に入れて、現場からの教育改革を実践していかなければいけないと考えています。

2 22年度取り組んだこと

(1) 宮城県・東北地区中学校長会等との関係

- ① 各教育事務所で持ち回りで実施している「宮城県・仙台市中学校長会研究協議会」への参加の在り方について、継続して協議している。
- ② 東北地区中学校長会研究協議会岩手大会への参加については、本校長会としては2分の1の参加ということだったが、本県での開催以外は、2分の1、さらには3分の1の参加ということを考えている。

なお、25年度開催予定の東北大会、28年度開催予定の全日中大会には、主管する県中学校長会に全面的に協力したい。

- ③ 大都市中学校長会研究協議会は、29年度に仙台市で開催することが大筋認められた。

(2) その他関係機関等との関係

- ① 県中体連の諸課題について、整理・解決を図るべく、県中学校長会、県中体連との協議を重ねている。
- ② 県中教研に関わる諸課題について、整理・解決を図るべく、県中学校長会、県市小学校長会、県市小教研との協議を始めた。
- ③ 中高（公・私）連絡会の持ち方については、教育課題部で集約した「私立高校入試に関するアンケート結果」を私立高校側に提供する場を設定するなどの改善を図ったが、今後もさらに検討を深めていきたい。
- ④ 小学校長会との合同懇親会について、今年度から実施しないこととした。

なお、市PTA協議会との合同懇親会については今後の検討課題である。

- ⑤ 「市教委への学校教育の充実に向けての提案」において、特に、中学校長会行財政部が「地域連携費の増額」についての要望を行った結果、支出基準の見直しが図られた。

(3) 本校長会内部の主な取り組み

- ① 市中学校長会として、公務員賠償責任保険に加入した。
- ② 研究部では、東北大会岩手大会で、膨大な資料を添え、「教師力の向上を目指した研修の充実」について、研究発表をした。
- ③ 教育課題部では、「私立高校入試に関するアンケート」の他に「野外活動・修学旅行についての実態調査」を行い、今後のための参考資料としてまとめた。
- ④ 研修部では、研究部と連携し、グループ研修を取り入れたり、危機管理や法規演習等を設定したりするなどの改善を図った。
- ⑤ 情報部では、校長会会員にメールアドレスを斡旋し、情報化の飛躍的な推進を図った。
- ⑥ 行財政部については、省略（前述）。
- ⑦ 生徒指導部では、校外指導連盟や生徒指導主事連絡協議会の組織の改編を図った。

3 まとめにかえて

今年度は、『学校からの教育改革』元年だと位置づけてよいだろうと思います。私たちは、各会員の力量アップを目指すとともに、「与えられた業務をこなす」発想から脱却し、新しい課題の掘り起こしとその解決のための方策の協議・実践の場として、様々な取り組みを行ってきたつもりですが、整理・解決にはもう少し時間がかかりそうです。この1年間の各会員の頑張りに感謝します。

平成22年度 仙台市中学校長会活動方針

今日、我が国では、国際化、高度情報化などによる諸課題に対応するとともに、真に豊かで活力ある社会の実現を目指して、大規模な改革が進められている。

また、教育基本法の改正及びこれを受けた教育関連法規の制定に加え、新学習指導要領の一部先行実施、教育振興計画に基づく施策等、教育改革が進行し、今までにない重要な局面が続いている。

この時に当たり、わたしたちは中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し、教育改革の理念を踏まえて、「生きる力」の育成と新しい時代に求められる学校づくりを推進しなければならない。わたしたちは、校長としての職責を一層自覚し、次の重点項目に基づき、本市中学校教育の充実・振興に努める。

1 仙台市中学校長会の機能を一層充実させ、活動の活性化に努める。

- (1) 教育改革や経営能力向上のための研修・協議の充実
- (2) 宮城県、小学校、高等学校の校長会との連携強化
- (3) 各部における諸活動の充実と関係諸機関等との連携強化
- (4) 市民・保護者への活動内容等の積極的な情報公開の推進

2 創意ある教育課程を編成・実施し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 新学習指導要領移行措置に基づく特色ある教育課程の編成と実施
- (2) 基礎的な知識・技能の習得及び学習意欲と応用力の向上を図る指導と評価の改善
- (3) 問題解決能力、創造力を育てる指導の工夫
- (4) 「豊かな心」と「健やかな体」をはぐくむ指導の工夫・改善

3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) 豊かな心の育成を中核とする生徒指導の推進
- (2) いじめの早期発見といじめを許さない学校体制の確立
- (3) キャリア教育（自分づくり教育）の充実
- (4) 安全・安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域社会との連携強化
- (5) 学校改善につながる学校評価システムの工夫
- (6) 教職員の適正な評価を通しての資質向上と教育実践に基づいた現職教育の充実
- (7) 特別支援教育の充実
- (8) 全県一学区制導入及び新入試制度への対応

4 多様な教育活動を推進するため、教育条件の整備・充実を期する。

- (1) 主幹教諭の配置拡大と教職員定数の改善
- (2) 免許外教科担任の解消と非常勤講師制度の拡充
- (3) 特色ある学校経営のための人事異動システムづくり
- (4) 施設・設備の充実と教材備品の整備

5 教職員の職責に見合う待遇改善の実現を期する。

- (1) 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持
- (2) 諸手当を含む給与体系の改善

1 各部の活動概要

(1) 総務部

(2) 研究部

(3) 教育課題部

(4) 研修部

(5) 人事部

(6) 情報部

(7) 行財政部

(8) 生徒指導部

総務部

部長 沼田 茂雄

1 活動目標

仙台市中学校長会の活動方針や宣言・決議を踏まえ、様々な要望や提言の取りまとめを行い、活動計画全体及び各部間の連絡調整を図りながら、会の能率的かつ円滑な運営に努める。

2 活動内容

- (1) 各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ、その窓口となる。
 - ① 仙台市教育委員会等への提言書の作成及び渉外に関する事項
 - ② その他の事項
- (2) 年度の活動目標・行事予定・事業計画を立案する。
- (3) 例会や各種会議等の準備や計画・運営を行う。
- (4) 各部会間等の綿密な連絡調整を図る。
- (5) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い、実施する。
- (6) 市中学校長会総会要項を編集し発行する。
- (7) 中高連絡会に関する事項
- (8) その他

3 活動の概要

- (1) 仙台市中学校長会歓送迎会〔H 白萩〕
4月 5日（月）
- (2) 第1回総務部会〔教育センター〕
4月15日（火）
部員顔合わせ、副部長の選出、活動目標、活動計画、係分担等についての検討等
- (3) 第2回総務部会〔H 白萩〕
4月27日（火）
仙台市中学校長会総会の準備・打合せ等
- (4) 東北地区校長会岩手大会〔花巻市〕
6月24日（木）～25日（金）
交通・宿泊等連絡調整〔31名参加〕
- (5) 「学校教育充実に関する小中合同研修会」
7月16日（金） 提言書素案の検討
- (6) 「小中学校教育の充実に関する研修会」
8月 2日（月）〔教育センター〕
小学校主担当（小・中学校長会役員出席）

- (7) 市教委への提言書提出〔上杉分庁舎〕
8月30日（月）
中学校長会話題提供
「地域連携費の増額について」
小学校主担当
- (8) 中高（公）連絡会〔H 白萩〕
9月 7日（火）
中学校当番
- (9) 第3回総務部会
10月14日（木）
中高（私）連絡会の準備・打合せ等
- (10) 中高（私）連絡会〔H 白萩〕
11月8日（月）
中学校当番
- (11) 中学校長会懇親会〔H 白萩〕
12月3日（金）
- (12) 全国中学校長会高知大会
〔高知県民体育館他〕
10月21日（木）～22日（金）
交通、宿泊等連絡調整（9名参加）
- (13) 大都市中学校長会札幌大会〔札幌市〕
11月11日（木）～12日（金）
交通、宿泊等連絡調整（8名参加）
- (14) 県・市中学校長会研究協議会登米大会
11月26日（金）
連絡調整（原則全員参加）
- (15) 県・市連絡協議会〔H 白萩〕
 - ① 5月28日（金）
 - ② 9月24日（金）
 - ③ 1月28日（金）
- (16) 第4回総務部会〔H 白萩〕
平成23年3月 3日（木）
年間の反省と次年度の計画等
- (17) その他（各例会時における準備等）

<総務部員>

部長	沼田 茂雄	（宮城野中）
副部長	相場 啓司	（上杉山中）
事務局長	佐藤 輝子	（五城中）
部員	山田 恵嗣	（長町中）
部員	川越 清志	（中田中）
部員	伊藤 順子	（西多賀中）
部員	藤井嘉津雄	（中山中）
部員	工藤 洋	（中野中）
部員	及川 正志	（松陵中）

研究部

部長 國井 恵子

1 活動目標

中学校教育の課題の主に「教師力の向上」にむけての具体的な方策とその効果を検証する。さらに教師力の向上のために各学校が実施している校内研修等の調査研究を行い、より効果的な校内研修のあり方の方向性を探る。

2 活動内容

- (1) 平成22年度東北中学校校長会研究大会花巻大会にむけて「教師力の向上」の調査研究に係わる具体的な方策と効果の検証を行い発表する。
テーマ「教師力の向上を目指した研修の充実」
- (2) 平成23年度宮城県中学校校長会研究協議会本吉大会の発表に向けて、22年度の課題を掘り下げ、調査研究を重ねまとめる。
テーマ「教師力の向上を目指した研修の充実」

3 活動概要

- (1) 4月15日(木)第1回部会
・活動目標、活動内容の確認
・副部長の選出
- (2) 4月19日(月)第2回部会
・アンケート内容の検討
・東北岩手大会発表原稿案の検討
- (3) 4月22日(木)第3回部会
・アンケート内容の決定
・東北岩手大会発表資料作成分担
- (4) 5月17日(月)第4回部会
・東北岩手大会発表予行
・6月校長会例会での分科会内容の検討
- (5) 5月25日(火)第5回部会
・東北岩手大会発表資料の整理
・6月校長会例会での分科会の係り分担

- (6) 6月4日(金)第6回部会
・6月校長会例会での分科会のまとめ
・東北岩手大会資料確認
- (7) 6月8日(火)第7回部会
・東北岩手大会発表最終予行及び資料原稿完成
- (8) 6月25日(金)
東北地区中学校校長会研究協議会・岩手大会にて研究発表
○発表題
「教師力の向上を目指した研修の充実」
《教師力の向上を目指す校内研修の在り方》
○発表者 佐藤 邦宏 (田子中校長)
- (9) 7月13日(火)第8回部会
・東北岩手大会発表の反省
・アンケート内容の概略の検討
- (10) 9月7日(火)第9回部会
・10月校長会例会での研修会分科会の原案検討
- (11) 9月17日(金)第10回部会
・10月校長会例会での研修会分科会の内容決定(研修部と合同開催)
- (12) 11月17日(水)第11回部会
・10月校長会例会研修分科会のまとめ
・今後の研究推進の方向性の検討

<研究部員>

部長	國井 恵子	(広瀬中)
副部長	末永 精悦	(八木山中)
部員	志村 聖	(秋保中)
部員	平 昇	(鶴谷中)
部員	三浦 亮	(郡山中)
部員	佐藤 邦宏	(田子中)
部員	須藤 由子	(南吉成中)
部員	小松 尚哉	(住吉台中)
部員	小川 淳一	(七北田中)

教育課題部

部長 伊藤 芳郎

1 活動目標

多様な教育改革が進む中、当面する教育課題を直視して解決すべき調査研究を行い、学校運営に資するよう提言する。

2 活動内容

- (1) 平成22年度仙台市中学校校長会活動方針3「当面する教育課題(1)～(8)」をうけて、仙台市における喫緊の今日的教育課題の分析と検討を行う。
- (2) 課題の絞り込みを行い、部員相互による協議を重ね提言をまとめる。
- (3) 課題に関して必要な実態調査を行い、検証資料とする。

3 調査研究テーマ

平成24年度から野外活動及び修学旅行の日数や経費の基準がなくなることから、各学校のねらいや活動内容、平成24年度以降の予定などを調査・分析すること、また、全県一学区の実施など公立高校入学者選抜検査等の改革の流れの中で、私立高校入試に関する実態調査が必要であることから、本年度の調査研究テーマを緊急調査である以下の二つとした。

- ・私立高校入試に関する調査
- ・野外活動・修学旅行関係調査

4 活動計画と経過

宮城県中学校長会と連携しながら、全県一学区に伴う進路希望の傾向と対策を議論した。

- 4.1 5 副部長選出、役割分担、活動内容と計画の確認
- 4.2 7 調査項目についての話し合い、役割分担
- 5.2 4 調査項目の提案
7. 5 「学校支援地域本部」についての研修
- 7.1 5 「私立高校の入試のあり方について」のアンケート内容の協議

- 8.1 8 「私立高校の入試のあり方について」のアンケート集計と分析
- 9.1 4 「修学旅行・校外学習等のあり方について」のアンケート集計と分析
11. 9 「修学旅行・校外学習等のあり方について」のアンケートの意見集約
12. 3 「修学旅行・校外学習等のあり方について」のアンケート報告
- 12.1 0 教育環境の現状と課題について
 1. 7 今年度の活動内容報告書作成
 2. 3 校長会例会にてまとめの報告
 2. 8 仙台二華中学校・仙台二華高等学校授業参観・経営方針等の説明、次年度の計画

5 提案事項の概要

- (1) 「私立高校入試に関する調査」について
 - ・全県一学区の実施や平成24年度からの公立高校入学者選抜検査等の改革を踏まえて、私立高校入試の実態調査や分析をし、私立高校側との情報交換を行う中で、事務手続きや推薦入学などの課題について、解決への提言を行った。また、日程やグループ分けなどではアンケート結果を基に分析内容を校長会に提言した。
 - ・私立高校側の改革の内容に今後も注視する必要がある。
- (2) 「野外活動・修学旅行関係調査」について
 - ・野外活動・修学旅行における各校の実態調査(ねらい・活動内容・経費など)を行い、特色ある教育活動の位置づけなどを分析し、平成24年度以降の経費・日程についての方向性を提案した。疲労回復措置については今後の課題である。

<教育課題部員>

部長	伊藤 芳郎	(三条 中)
副部長	板橋 誠二	(加茂 中)
部員	犬飼百合子	(生出 中)
部員	三品 良春	(南中山 中)
部員	八柳 善隆	(茂庭台 中)
部員	佐藤 正道	(柳生 中)
部員	井上 広明	(広陵 中)
部員	渡辺 尚人	(仙台青陵中等教育)

研 修 部

部長 佐藤 淳

1 活動目標

- (1) 今日的な課題に即応した学校教育の改善を図るための研修の企画運営を行う。
- (2) 学校運営・経営に参考となる研修の企画を行う。

2 活動内容

- (1) 各種研修の企画と運営を行い、会員相互の研鑽を深める。
- (2) 例会時の研修の企画と運営を行う。
- (3) 研究部との連携により、教育の今日的課題を明確化し、解決の方策を探る研修を実施する。

3 活動の概要

- (1) 4月15日(木) 第1回研修部会
・副部長選出
・活動目標、活動内容、活動計画の検討
- (2) 4月21日(水) 第2回研修部会
・研修計画と内容について、事務分担等
- (3) 6月2日(水) 第1回研修会
東北大会事前発表と討議(分科会)
「教師力の向上を目指す研修のあり方」
発表 田子中学校長 佐藤 邦宏 氏
- (4) 7月1日(木) 第2回研修会
講話 「知っておきたい校長の実務」
折立中学校長 引地 信佳 氏
- (5) 7月30日(金) 第1回新会員研修会
「人事ヒアリング、学校運営等について」
講師 大内吉基副会長、沼田茂雄総務部長
- (6) 8月27日(金) 第3回研修会
講話 「学校事故とその対応」
講師 仙台市教育局教育相談課
主幹 米澤 通徳 氏
- (7) 8月27日(金) 第4回研修部会
・第4回研修会、その後の研修会について
- (8) 9月17日(金) 第5回研修部会
・第4回研修会について(研究部と合同)
- (9) 10月1日(金) 第4回研修会
「教師力向上に向けた研修について(分科会議)」

- (10) 10月5日(火) 第6回研修部会
・5・6回研修会に向けて(アンケート等)
- (11) 10月27日(水) 第2回新会員研修会
「人事異動について」
講師 山田和行人事副部長
- (12) 12月3日(金) 第5回研修会
講話 「仙台市の教育事情」
講師 仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民 氏
- (13) 12月8日(水) 第7回研修部会
・アンケートの検討、第6回研修会準備
- (14) 1月14日(金) 第6回研修会
・「地域連携について」テーマ別情報交換
- (15) 1月19日(水) 第8回研修部会
・テーマ別情報交換のまとめ、次年度計画
- (16) 2月3日(木) 第7回研修会
「地域連携」実践発表
南小泉中学校長 堀江 健一 氏
秋保中学校長 志村 聖 氏
柳生中学校長 佐藤 正道 氏
- (17) 3月3日(木) 第8回研修会
「年間の活動報告 ～各部より～」
第9回研修部会
・平成22年度反省、23年度計画立案
・情報交換

4 課題

- (1) 研究部や生徒指導部との連携はうまくいったが、研修回数不足となり内容の調整に苦慮した。
- (2) 分科会の情報交換が充実したが、施設見学ができなかった。内容を検討し、一層実践した研修にしたい。

<研修部員>

部長	佐藤 淳	(鶴が丘中)
副部長	千葉奈緒子	(桜丘中)
部員	後藤 邦彦	(第二中)
部員	高野 仁士	(愛宕中)
部員	堀江 謙一	(南小泉中)
部員	渡邊 次雄	(蒲町中)
部員	山内 正通	(向陽台中)
部員	及川 英之	(附属中)

人 事 部

部長 庄子 修

1 活動目標

人事に関する課題の解明と適正化に努める。

2 活動内容

(1) 人事に関する調査を行い、現状と課題等を把握する。

- ① 職員構成（別紙）
- ② 現在校勤務年数別人数（別紙）
- ③ 新採用教職員配当状況
- ④ 人事に関する要望事項他（別紙）

(2) 人事調整会の運営を行う。

- ① 人事調整会資料の作成
- ② 人事調整会の運営

3 活動概要

- (1) 第1回部会 4月15日(木)
 - ・副部長選出, 役割分担
 - ・活動目標と内容の検討
- (2) 第2回部会 4月27日(火)
 - ・年間活動計画の立案
 - ・役割の分担
- (3) 第3回部会 6月23日(水)
 - ・調査結果のまとめと印刷・製本
- (4) 市中校長会例会 7月1日(木)
 - ・「人事に関する調査」結果の報告
- (5) 新会員研修会 10月27日(水)
 - ・人事異動関係研修

(6) 県・市校長会研究協議会
11月26日(金)
・「人事異動基本調査」の依頼

(7) 第4回部会 12月15日(水)
・「人事異動基本調査」の集計
・調整会の資料作成, 運営方法, 役割分担
・市教委との打合せ

(8) 臨時校長会（調整会）
1月7日(金) 於：ホテル白萩

(9) 第5回部会 3月3日(木)
・平成22年度部会の反省
・平成23年度の活動計画

<人事部員>

部 長	庄子 修	(富 沢 中)
副 部 長	山田 和行	(高 砂 中)
部 員	引地 信佳	(折 立 中)
部 員	菊地 省三	(八 乙 女 中)
部 員	曳地 泰博	(将 監 中)
部 員	片倉 景範	(寺 岡 中)
部 員	大曾根眞紀子	(南光台東中)

情 報 部

部長 小野寺 康一

1 活動目標

- (1) 仙台市中学校長会Webページを更新し、広報活動に努める。
- (2) 必要に応じて適切な情報を会員に提供するように努める。
- (3) 仙台市中学校長会「紀要」を作成する。
- (4) 仙台市中学校長会会員全員のメールアドレス取得を目指すとともに活用について検討する。

2 活動内容

- (1) 仙台市中学校長会のWebページを随時更新する。
- (2) 各部との連携を図り、資料の収集や適切な情報を会員に提供する。
- (3) 仙台市中学校長会の活性化と活動の理解を図り、記録や報告書、紀要等をWebページに掲載する。
- (4) 仙台市中学校長会「紀要」を作成し、会員に配布する。

3 活動の概要

- (1) 第1回情報部会 4月15日(火)
平成22年度「情報部組織、活動目標、活動内容」の確認。副部長の選出。
情報部会開催日の確認。
- (2) 第2回情報部会 4月27日(火)
活動内容の確認。Webページ作成、及び更新コンテンツ等の作成研修。
仙台市中学校長会総会の記録及び役割分担。
- (3) 第3回情報部会 6月2日(水)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
- (4) 第4回情報部会 7月1日(木)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
- (5) 第5回情報部会 8月27日(金)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。

- (6) 第6回情報部会 10月1日(金)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
仙台市中学校長会「紀要」編集計画の検討。
- (7) 第7回情報部会 11月2日(火)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
- (8) 第8回情報部会 12月3日(金)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
仙台市中学校長会「紀要」原稿依頼。
- (9) 第9回情報部会 1月14日(金)
仙台市中学校長会「紀要」校正。
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
次年度「活動目標、活動内容」等検討
- (10) 第10回情報部会 2月3日(木)
仙台市中学校長会「紀要」二次校正。
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
次年度「活動目標、活動内容」等検討。
- (11) 第11回情報部会 3月3日(木)
今年度の反省と次年度の計画。
仙台市中学校長会「紀要」完成・配布。

4 その他

仙台市中学校長会「紀要」の発行については、平成19年度から、諸機関への配布分を除き、CD化を行っている。平成22年度「紀要」については、CDによる配布とともにWebページの掲載について検討する。

<情報部員>

部 長	小野寺康一	(幸 町 中)
副 部 長	首藤 眞弓	(西 山 中)
部 員	櫻井 健二	(東 仙 台 中)
部 員	郷家 雄二	(六 郷 中)
部 員	佐藤 好一	(山 田 中)
部 員	三浦 文道	(人 来 田 中)
部 員	桜井 重行	(根 白 石 中)

行 財 政 部

部長 澁谷 代志子

1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。

2 活動内容

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言・要望をまとめる。
- (2) 年間予算案を提案する。
- (3) 収入・支出状況の把握と中間決算報告を行う。
- (4) 決算報告を行う。
- (5) 財務内容について検討し、次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3 活動概要

- (1) 臨時校長会・総合部会
4月15日(木) 教育センター
・活動目標・活動計画作成
・21年度決算と監査及び22年度予算案の検討
- (2) 仙台市中学校長会総会
4月27日(火) ホテル白萩
・21年度決算と監査報告
・22年度予算案の提案と承認
- (3) 行財政部会
5月25日(火) 北仙台中学校
・調査研究計画(調査内容, 担当)
「地域連携費に関わる調査」に決定
・会費及び負担金等の集金計画について
- (4) 校長会6月例会・研修会, 行財政部会
6月2日(水) 教育センター
・アンケートの検討, 実施計画作成
- (5) アンケート調査実施
6月8日(火)～6月30日(水)
・「地域連携のための費用」に関するアンケート

- (6) 行財政部会
8月5日(木) 北仙台中学校
・アンケートのまとめ作成
- (7) 校長会8月例会・研修会
8月27日(金) 教育センター
・アンケート結果報告
- (8) 仙台市教育委員会との教育の充実懇談会
8月30日(月) 上杉分庁舎
・地域連携のための費用に関わる調査結果の提示とお願い
- (9) 中間監査会
9月14日(火) 準備会 校長会事務局
9月24日(金) ホテル白萩
- (10) 22年度決算見通しと23年度予算及び活動内容・計画の検討
2月3日(木) 行財政部会教育センター
2月14日(月) 校長会事務局
- (11) 行財政部会
3月3日(木) ホテル白萩
・22年度会計執行状況提示
・22年度の反省及び23年度計画及び予算案検討
- (12) 22年度会計監査
3月中旬 ホテル白萩
- (13) 集金
4/27(火) 公務員賠償責任保険申込み
9/7(火) 市中校長・仙塩地区高等学校長連絡会
10/1(金) 県・市中学校長研究協議会登米大会
昼食代
11/8(月) 市中学校長・私立高等学校長連絡会
12/3(金) 仙台市中学校長会懇談会
1/7(金) 臨時校長会昼食代

<行財政部員>

部 長	澁谷代志子	(北 仙 台 中)
副 部 長	小嶋 正敏	(将 監 東 中)
部 員	渡辺 洋一	(沖 野 中)
部 員	阿部 誠	(大 沢 中)
部 員	高橋 順子	(長命ヶ丘中)
部 員	齋藤 利章	(館 中)

生徒指導部

部長 志賀野 博

1 活動目標

積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実
～生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～

2 活動内容

- (1) 大都市特有の生徒指導に関する諸問題の調査研究
- (2) 関係諸機関との行動連携強化
- (3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
- (4) 特別支援教育の現状と課題について調査研究
- (5) 家庭・地域との連携による生徒安全対策の推進
- (6) 中学校体育スポーツに関する事項

3 活動の概要

- (1) 第1回部会 4月15日(木)
 - ①正副部長の互選
部長 志賀野 博(東華中)
副部長 尾形 孝徳(岩切中)
 - ②活動目標、内容、活動計画、組織等の検討
前年度活動の成果課題の確認、並びに本年度組織編成・担当分掌と活動内容・計画の策定
・生徒指導班((1)(2)(5))・研修班((2)(6))
・特別支援班((4)) ・部長、副部長((3))
 - ③生徒指導主事連絡協議会、校外指導連盟、青少年対策四機関、小中学校合同生徒指導部合同部会の事業計画・運用の検討
- (2) 第2回部会 7月8日(木)
「仙台市青少年対策四機関・小中学校校長会生徒指導部合同会議」(仙台市子供相談支援センター)
講話「民間企業における人材育成(含危機管理)」
仙台銀行取締役総務部長 高橋 博 氏
- (3) 第3回部会 7月30日(金)(研修;H白萩)
「仙台市小中学校校長会生徒指導合同部会」
 - ①話題提供;「教育相談機能を生かした学校経営と校長の役割」中田小学校長 高橋 智男
 - ②3班による事例検討・情報交換と全体報告
・生徒指導上配慮を要する児童の小中連携
・不登校児童生徒の事例と対応
・組織的、協働的な生徒指導体制

- ・中学校にける教育相談の現状
- (4) 第4回部会 1月21日(金)
 - ①各部生徒指導主事連絡協議会の持ち方
 - (5) 第5回部会 3月3日(木)
 - ①本年度の事業の振り返り
 - ②次年度事業の検討
 - (6) 第27回生徒指導管外研修会
平成22年11月18日(木)～11月19日(金)
 - ①○宇都宮市立陽南中学校視察
・小中生徒会連携によるいじめ根絶運動
○国立きぬ川学園(児童自立支援施設)
 - ②○宇都宮市立河内中学校視察
・小中一貫で取組む地域サポートチーム
 - (7) 「学校事故とその対応」研修部と共催8月例会
 - (8) 中学校における特別支援教育の現状と課題
・アンケート調査によるまとめと対応
 - (9) 仙台市生徒指導主事連絡協議会運営
・全市、各部との情報交換
・関係諸機関との情報交換
・中総体、長期休業、入試対策
・組織改編と次年度からの実施運営
 - (10) 仙台市校外指導連盟運営
・校外での生活指導と事故防止対策
(水難事故、交通事故、繁華街での事故等)
・中総体期間中の事故防止対策
(対策本部設置・市内4箇所)
・危険箇所確認と巡回指導、小中合同会議等
・組織改編と次年度からの実施運営
 - (11) 仙台市小中学校長会生徒指導合同部会運営
・次年度より相談課員との「生徒指導上の諸問題に係る分科会形式討議」の開催

<生徒指導部員>

○部長 志賀野 博(東華中) 市地域ぐるみ生活指導連絡協議会副会長	○部員 庄子 明宏(高森中) 仙台市校外指導連盟監事 (特別支援班)
○副部長 尾形 孝徳(岩切中) 生徒指導主事連絡協議会全市部長 (生徒指導班)	○部員 菅原 敏彦(八軒中) 仙台市安全安心まちづくり推進委員 (研修班)
○部員 村上 渉(吉成中) 仙台市校外指導連盟監事 (特別支援班)	○部員 佐藤 一祐(七郷中) 仙台市校外指導連盟副会長 (生徒指導班)
○部員 菅原 賢二(南光台中) 仙台市校外指導連盟会長 (生徒指導班)	○部員 手塚 健太(袋原中) 仙台市中教研生徒指導部会長 (研修班)

2 研究調查等報告

(1) 研究部

(2) 教育課題部

(3) 人事部

(4) 行財政部

(1) 研 究 部

教師力の向上

—教師力の向上を目指す校内研修のあり方—

校長会 研究部

I はじめに

「生きる力」をはぐくむことを目指し、児童生徒の学力、体力、道徳性などを確実に育成することや、地域に根ざした学校づくりを推進することが求められている。こうした時代の要請や保護者、地域の期待に応え、「生きる力」をはぐくむ質の高い教育活動を展開するために、教師一人一人の資質・能力や実践的指導力、つまり教師力を向上させることが課題になっている。仙台市においても、教職員の資質・能力の向上については、平成 22 年度「杜の都の学校教育」の重点事項の 1 つに位置づけられている。

仙台市中学校校長会研究部会では、平成 20 年度より、教師力の向上を目指す校内研修の在り方について研究に取り組んできた。仙台市内各校の取り組みの状況を探り、そこから浮かび上がる課題や改善に向けての方向性を探ることが、今後の学校経営の一助となるものと考え、本主題を設定した。

- ・教職に対する強い情熱
使命感や誇り、子どもへの愛情や責任感、学び続ける向上心等。
- ・教育の専門家としての確かな力量
子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導、学級づくり、保護者との連携づくり。
学習指導・授業づくり、教材解釈等。
- ・総合的な人間力
豊かな人間性や社会性、常識と教養。
対人関係能力、コミュニケーション能力、協調性等。

以上を踏まえ、仙台市中学校校長会研究部会では、教師力として以下の 6 点を押さえた。

- | | |
|---------|---------|
| ・意欲 | ・授業力 |
| ・生徒指導力 | ・事務遂行力 |
| ・危機管理能力 | ・豊かな人間性 |

II 研究目標

教師力の向上を目指した校内研修の在り方について、実態を把握し、改善の方策や望ましい在り方を考察することにより、学校経営の一助とする。

III 研究の方法

1 研究の視点

(1) 「教師力」について

平成 17 年 10 月に公表された中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」には、優れた教師の要素として、以下の 3 点が示されている。

(2) 「校内研修の在り方」について

教師力の向上は、単に個々の教師の資質・能力や実践的指導力を高めるだけでなく、学校全体の教育力や組織力の向上に結びつくことが必要と考えた。この観点から、様々な態様がある教員研修の中で、学校が組織的、計画的に行う校内研修の在り方に焦点を当てる。

2 研究の方法

(1) 平成 20 年度

仙台市内の中学校 63 校の校長を対象に、教師

力の向上を目指す上で有効ととらえた校内研修の実際についてアンケート調査を実施し、その結果を考察した。

(2) 平成 21 年度

教師力の向上を目指す校内研修の実際や改善の方策、校長としての指導性の在り方について追跡調査を行い、考察した。

IV 研究の内容

1 平成 20 年度調査より

市内校長を対象に、教師力の向上を目指す上で有効ととらえた校内研修の内容を調査したところ、学習指導に関係する内容が 54 例と最も多く、次いで生徒指導関係 (22 例)、特別支援教育関係 (20 例) であった。(資料 1)

(1) 学習指導に関する研修

学習指導に関する研修の内容は、指導案検討 (11 例)、授業研究 (35 例)、評価に関する研修 (8 例) であり、各校で授業力の向上に積極的に取り組んでいる状況が明らかとなった。

校内授業研究の回数について調査したところ、最も多かったのは 2 回 (18 校)、次いで 3 回 (12 校) であった。約 70% の中学校が年 5 回以内実施している中、20 回を超す授業研究会を実施している学校が 4 校見られた。

(2) 生徒指導に関する研修

生徒指導力の向上を目指す研修は、事例研究や情報交換が 7 例で、他には P A や人間関係づくり、集団の指導に関する研修 (6 例)、Q U や学級経営関係 (5 例) であった。中には、スクールカウンセラーやスクールサポーターによる専門的な立場からの講話や、授業妨害や問題行動対策に関する実践的な研修が行われていた。

(3) 特別支援教育に関する研修

特別支援教育関係の研修では、ほとんどが事例

研究であった。指導主事など専門的知識を持つ講師を招き、事例と講話内容を関連させた研修や、発達障害の疑似体験を通してその対応について考察する研修など、日常の指導にすぐに活かすことを目指した研修が目立った。

(4) 危機管理に関する研修

危機管理に関する研修は 5 例である。内容は、学校事故とその対応に関する研修、地震などの緊急時の対応に関する研修、インターネットや携帯電話使用のマナーに関する研修、A E D 使用法の研修等であった。

(5) 情報に関する研修

情報に関する研修は 3 例である。内容は、個人情報取り扱いに関する研修、パソコンソフトの効果的な活用を図る研修であった。

(6) その他の研修

上記以外では、キャリア教育に関する研修、学校評価や教員評価に関する研修、組織力の向上を目指した研修、N I E に関する研修が挙げられた。

2 平成 21 年度調査より

平成 20 年度の調査をもとに、本研究部会で押さえた 6 つの視点から追跡調査を行い、教師力の向上を目指す校内研修や校長の指導の在り方について考察した。

(1) 授業力の向上を目指した研修

A 校では、校長が授業力の向上を学校の課題の 1 つととらえ、教師を対象に、授業力と校内研修会に関するアンケートを行い、校内研修の充実を目指した。

① アンケート結果の概要 (資料 2)

② 調査結果から

1) 授業力について、教師は各々の経験をもとに多面的にとらえている。

2) 普段の授業の中で、授業力の向上を意識し

て取り組んでいる教師は多く、その内容は、発問、資料、指導過程の工夫など、具体的な指導手法についてである。

一方、授業力の向上を意識していないという教師は、自分がイメージする授業に到達していないことや、授業力を意識する余裕がないことを理由に挙げている。

- ③ 以上の結果を踏まえ、授業力について学校全体で理解を深めると共に、授業力の向上や授業改善の手がかりについて検討した。

【考察】

- ① 授業力や授業改善の手がかりについて、他の教師の見方・考え方や手法を知る機会となり、授業改善に取り組む意欲の向上に結びついている。
- ② 教師一人一人が、実はこれまでも授業力の向上にかかわる実践をしていたなどの気づきや視点を持ち、意識の深化に結びついた点で、校内研修をとおり、学校全体で授業力をテーマにした効果が明らかとなっている。

B校では、校長のリーダーシップのもと、校内研究の研究主題を「日々の授業力の向上を目指して」～自分の考えを深める生徒の育成～と設定した。この研究主題は、確かな学力の育成を目指すため、教師一人一人に「授業力」を意識させたいという校長の経営方針のもと設定されたものである。具体的な取り組みは以下の通りである。

- ① 授業力の焦点化
 - ・使命感、熱意 ・生徒理解力
 - ・統率力 ・指導技術
 - ・教材解釈、教材開発力
 - ・指導と評価の計画作成、改善力

この中で、教師の自己診断結果を踏まえ、指導技術に焦点を当てた。

- ② 研究の内容

- ・仙台市教育センターの要請訪問（指導案検討、授業研究）
- ・教師全員による研究授業
- ・自己診断シート、生徒の授業アンケート等の分析（資料3）
- ・自主公開（平成22年度）

【考察】

- ① 2回実施した自己診断シート、生徒による授業アンケートにより、教師自身の授業力の課題を明らかにできた。
- ② 要請訪問、教師全員による研究授業の実施により、授業に関する自分の課題を解決する方法を教科部会等で検討し、実践に結びつけることができた。
- ③ 単元ごとの学習のめあての活用や学習のルール、グループ学習について等、学校として今後さらに深める必要がある学習指導上の課題が明確になった。

(2) 生徒指導力の向上を目指した研修

C校では、新任教師や若い講師が学級担任を担当していることから、若い教師の生徒指導力の向上が学校の課題となっていた。そこで、校長が研究部を指導し、学級経営に造詣の深い退職した教師を講師に迎え、学級経営や保護者との対応等の具体についての研修を行った。

【考察】

- ① 事後アンケートでは、講話内容に共感を持った教師が多く、講話に納得し満足感を得ている。この満足感が、生徒指導、学級経営にあたる意欲の向上に結びついている。
(資料4)
- ② 特に若い教師の場合、指導上の悩みや戸惑いを抱え込むケースがある。豊富な実践例（失敗例も含めて）を通し、自分だけでなく先輩も悩んだり困ったりした等、悩みを共有化すること

が、教師及び教師集団の生徒指導力の向上につながっていくと考える。

(3) 事務遂行力の向上を目指した研修

D校では、校長のリーダーシップのもと、以下のように事務遂行力の向上に向けた取り組みを行った。さらに教職員を対象にアンケート調査を行い、事務遂行力向上の方向性を探った。(資料5)

① 会議の精選及び持ち方の工夫

- 1) 朝の打ち合わせ(月水金)、主任会(金の朝の打ち合わせ後)、職員会議(資料活用による簡略化)
- 2) 生徒指導、保健関係、施設設備等各種報告書の整備(資料6)
- 3) 研究関係の文書の集約

② 電子情報化の推進

- 1) 校内LAN整備(校務分掌フォルダに教育計画や諸様式を集約)(資料7)
- 2) パソコンによる定期考査の成績処理や通信票、指導要録(学籍)の作成
- 3) 「添書・収発簿」フォルダによる文書の発出
- 4) データベースによる受賞台帳、生徒への委嘱状等の整備

③ その他

- 1) 「諸帳簿点検リスト」の作成
- 2) 「週予定表」に報告文書締め切り日を明示
- 3) 職員会議における、事務処理に関する校長の指示

【考察】

- ① 事務遂行力の向上に効果があることが明らかになったのは、以下の2点である。
 - 1) 会議の精選や持ち方の工夫、電子情報化の推進
 - 2) 事務遂行上の手順、様式、マニュアル等の整備
- ② 教師の事務遂行力の向上には、子どもと向き

合う時間の確保と教育公務員としての職務遂行という、2つの視点から工夫する必要があることが明らかとなった。この2点を踏まえ、校務遂行上の組織や流れを整備することで、事務遂行力の向上を図ることができることが確認された。

(4) 豊かな人間性の涵養を目指した研修

E校の課題について、校長は、「教職員間の教育力」であり、職場モラルの醸成が大切ととらえた。さらに、E校では、校長が生徒理解を何より大事にしたいという方針を持っていたこと、教職員にも生徒理解を深めたいという課題意識があったことから、生徒指導力の向上を目指す研修をとおして教職員の意識を深め、教師間のかかわりの深化させつつ職場モラルの向上を目指した。

① 生徒理解研修の実施

- 1) 生徒指導に造詣の深い元校長からの講話(8月実施)
 - 2) 生徒指導力自己診断シート(講話の事前、事後に記入、提出)
- ② 生徒指導力自己診断シートの活用
 - 1) 集計結果を提示(8月)
 - 2) 自己診断シートの再記入と「実践できたこと」の記入(1月)
 - 3) 集計結果の提示(職員会議、研究集録)(資料8)

【考察】

- ① 自己診断シートの活用は以下の点で有効であった。
 - 1) 生徒指導をすすめる上で教師が配慮すべきことや、求められる資質について指標として明示されたこと。このことが、ひいては教師の人間性の涵養に結びついていくものと思われる。
 - 2) ただ研修を受けるだけでなく、研修で得た

ことや実践したいことを明確にし、シートを活用して継続して問うことで、教職員の意識の深化が見られた。

- ② 継続して自己の変容を見ることで、教師が充実感を持ち、課題意識を深めることができた。教師としての自己の変容を自覚し、充実感や新たな課題意識を持つことは、一人の教師としての人間性を深める上で大きな意味を持つものと考えられる。

(5) 危機管理能力の向上を目指した研修

F校では、学校事故の未然防止についての教職員の意識は高かったが、実際に大事故が発生した。それを踏まえ、危機発生時の適切な対処及び拡大防止についての実践力を向上させるべく、校長の指導のもとで、これまで受けた研修から学校として必要と考えられる内容を取り上げ、危機管理研修を実施した。

- ① 危機への対応（資料9）
 - ・危機管理の基本的な考え方
 - ・具体的な場面での対応、指導等
- ② 危機管理広報
 - ・模擬緊急記者会見等
- ③ 学校事故の判例に見る学校における救急措置の危機管理
 - ・学校事故防止と医療の基本
 - ・違法性と安全配慮義務等
- ④ 学校事故防止の観点から、学校のすべての面の見直し、点検（全職員）

【考察】

- ① 危機の予測や予知の必要性を全職員で再確認する機会が必要であり、教職員の危機意識や危機管理能力を高めていくには、計画的に複数回研修を実施すると効果的である。
- ② 管理職や生徒指導主事、養護教諭らが講師となり、危機管理の実際や事故発生時の対応につ

いて等、学校の実態に即した内容を取り上げたことで、危機管理意識を高めた教師が多かった。

G校では、教職員の危機管理能力を高めることを目指し、校長の指導のもと、以下の取り組みを行った。

- ① 危機管理に関するアンケートを実施した。（資料10）
- ② 危機の予知・予測に関する調査を行い、その結果を「ヒヤリ・ハット集」として全職員に配付した。さらに、その月の「ヒヤリ・ハット」を集約し、職員会議で提示させた。（資料11）
- ③ 各部活動顧問から、予想される事故、教師から生徒への注意事項を報告させ、さらに5ヶ月後に、予想される事故を意識した指導ができたかどうか、追跡調査を行った。また、保健室のけがの状況を調べ、顧問が予想するけが以外のけがについて、新たな視点を持つよう顧問を指導した。（資料12）

【考察】

- ① 実際の学校生活に即したアンケートやヒヤリ・ハット集をとおし、危機管理の視点が明確となり、危機管理の見方・考え方の深化につながった。
- ② 予想される事故とそれに対する教師からの注意事項について、5ヶ月後に追跡調査を行うことにより、教師が日常的に危機管理について意識できるようになったことも、危機管理能力が向上した一面と見ることができる。
- ③ 校長の指導のもと、予想されない事故への視点を持たせることで、学校事故の未然防止に向けた教師や教師集団の自覚が深まった。（資料13,14）

(6) 意欲の向上

これまでの研修例に見られるように、意欲は、授業力、生徒指導力などの実践的指導力や見方・

考え方の深化と表裏一体となって向上している。教師の課題意識、研修の有用感、研修をとおした満足感等が、新たな意欲につながると考えられる。

(7) 学校経営上の課題と校内研修

学校経営上、直面する学校課題を踏まえた上で教師力の向上を図ることは、極めて重要である。この観点から、校長がとらえる学校課題（または教職員の課題）と実際に行われた校内研修の内容との関連を調査したところ、次のような結果となった。

- ① 校長がとらえる課題に即した校内研修を実施した学校（32校）
- ② 校長がとらえる課題と校内研修の内容との関連が明確でない学校（31校）

【具体例】

- ・校長のとらえる課題：授業力の向上
- ・実際の校内研修の内容：AED操作等、危機管理

【考察】

赴任1年目の校長は、校内研修のテーマや内容が決まっており、動かしにくい状況がある。しかし、学校として組織的・計画的に行う校内研修を、学校課題を踏まえた教師力向上の機会として有効に機能させるためには、校内研修の内容等に関して、強力な校長のリーダーシップが求められる。

V おわりに

2年間にわたる調査研究から明らかになったことや、教師力の向上を目指す校内研修の在り方として留意しなければならないことは、以下のとおりである。

- (1) 直面する学校課題に対し、校内研修をとおして教師力、特に実践的指導力（授業力、生徒指導力等）や意欲の向上を図ることは、教育や学校に対する期待や要望が多様化している中、

その重要性はますます大きくなっていることが明らかとなった。

- (2) 教師力の向上を目指す校内研修の在り方としては、次のような研修が望ましい。

- ① 学校課題と教師の課題意識に共通性がある等、明確な課題意識のもとにすすめられる校内研修
- ② 教師が、自らの教育活動の意義や内容を、新たな視点でとらえ直し、実践に臨むことができる校内研修
- ③ 研修をとおして、教師自身や生徒の変容を自覚できる校内研修
- ④ 校長のリーダーシップのもと、明確な目的、趣旨、計画のもとにすすめられる校内研修

- (3) 教師力の向上を学校経営の視点からとらえ直し、学校課題を踏まえた校内研修の内容を充実させることが課題である。そのためには、校長が校内研修の計画や内容に深くかかわり、リーダーシップを発揮して校内研修を活性化させることが求められる。

- (4) 教師力の向上に向けた今後の取り組み

- ① 自己診断シート活用の工夫

仙台市中学校校長会では、授業力、豊かな人間性、危機管理能力の研修例に見られたように、自己診断シートの活用に取り組んでいる。自己診断シートを、教師が研修をとおした変容を確認するツールとして、さらには、校内研修における校長の指導性を発揮する機会として、有効に機能させたい。（資料15）

- ② 校長会全体としての取り組み

学校経営上の共通する課題や教師力の向上に向けての具体的な取り組みについて、校長同士が意見交換し、互いに高めあう校長会としての研修を、研究部と研修部の連携のもと、推進する。

今年度の研究のまとめ

研究テーマ：「教師力の向上を目指す校内研修の在り方」

仙台市中学校長会研究部

「教師力の向上を目指す校内研修の在り方」は、今年度で3年目の研究となる。東北校長会の発表後の研究内容は以下の通りである。

1 東北校長会後の研究の方向性

東北校長会岩手大会における研究発表では、教師力の向上を目指す校内研修の在り方として、「直面する学校課題に対し校内研修をとおして教師力の向上を図ることは、教育や学校に対する期待や要望が多様化している中、その重要性はますます大きくなっている」とその意義をあらためて確認した。そして教師力の向上を目指す校内研修の在り方として、以下の3点を提示した。

(1) 教師力の向上を目指す校内研修の在り方として、以下のような研修が望ましい。

- ① 明確な課題意識のもとにすすめられる校内研修
- ② 新たな視点でとらえ直し、実践できる校内研修
- ③ 変容を自覚できる校内研修
- ④ 校長のリーダーシップのもとすすめられる校内研修

(2) 教師力の向上を学校経営の視点からとらえ直し、学校課題を踏まえた校内研修の内容を充実させることが課題。そのためには、校長のリーダーシップが必要である。

(3) 教師力の向上に向け、今後次の2点に取り組んでいく。

- ① 自己診断にシート活用の工夫
- ② 校長会全体での研修の推進

岩手大会での研究発表を踏まえ、今年度は、上記(1)～(3)を柱に研究を進めてきた。

2 今年度の校内研修の実施状況

今年度、教師力の向上を目指して各学校が実施した（実施予定を含む）校内研修について、7月にアンケート調査を行った。その結果は、以下の通りである。

(1) 校内研修の実施状況

今年度実施した校内研修（7月末現在）について調査したところ、学習指導関係が25例、生徒指導関係が13例、特別支援教育関係が15例、危機管理が5例、情報関係が4例、その他の研修が7例であった（図1）。

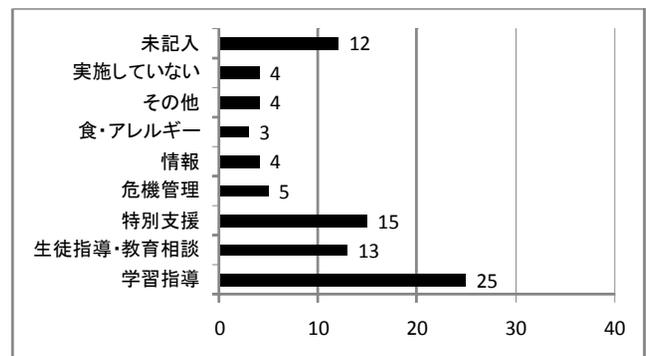


図1 今年度実施した校内研修

次に、今後実施予定の校内研修について調査したところ、学習指導関係が36例、生徒指導が10例、特別支援教育関係が11例、危機管理関係が8例、情報関係が8例、その他の研修が2例であった（図2）。

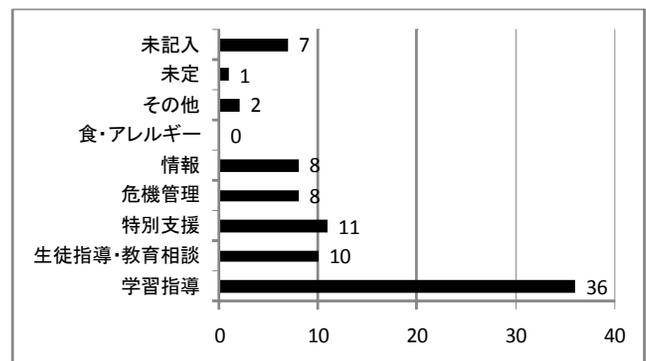


図2 今後実施予定の校内研修

今年度も、学習指導に関する研修が多く、授業力の向上に向けて各学校が努力している状況がうかがえる。また、危機管理に関する研修は、実施済みと実施予定合わせて13例であり、平成20年度調査（5例）より増加している。今年度の新たな取り組み内容としては、電子黒板の活用に関する研修（情報関係）、新しい入試制度に関する研修（その他）等が見られた。

(2) 校内研修の望ましい在り方との関連

校内研修を、教師力向上につながる実のある研修にするために、今年度実施した研修（または実施予定の研修）と、東北校長会の研究発表で示した望ましい校内研修の在り方（1-（1）参照）の4つの視点との関連を調査したところ、以下のような結果であった。

実施済みの校内研修については、明確な課題意識のもとに進められる校内研修が40例、新たな視点でとらえ直す校内研修が31例、変容を自覚できる校内研修が12例、校長のリーダーシップをもとにした校内研修が9例であった（図3）。

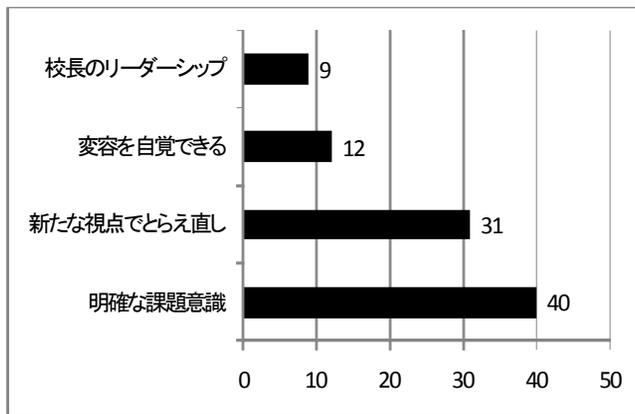


図3 校内研修の望ましい在り方との関連

実施予定の校内研修については、明確な課題意識のもとに進められる校内研修が37例、新たな視点でとらえ直す校内研修が35例、変容を自覚できる校内研修が24例、校長のリーダーシップをもとにした校内研修が17例であった（図4）。

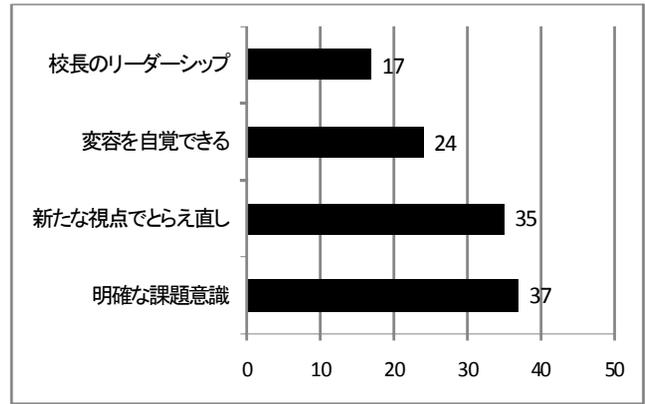


図4 校内研修の望ましい在り方との関連

教師力の向上を目指す校内研修の在り方として、明確な課題意識のもとに進められる研修が、実施・実施予定合わせて77例で最も多かった。教師力を高める上では、教師一人一人が課題意識を明確にもって研修に臨むことが何より大切である。そのためには、教師一人一人の課題意識を、各学校が抱える課題や学校経営上の課題という共通の土俵の上のせて、方向性を明確に示す校長のリーダーシップが求められる。

(3) 校長のリーダーシップ

校内研修にかかわる校長のリーダーシップの状況は以下の通りであった。

校内研修実施にあたって、「校長がとらえる学校課題や教職員の課題に即した校内研修が実施されましたか」という内容で、校内研修における校長のリーダーシップを調査したところ、「はい」という学校は50校、「いいえ」という学校は12校であった（図5）。

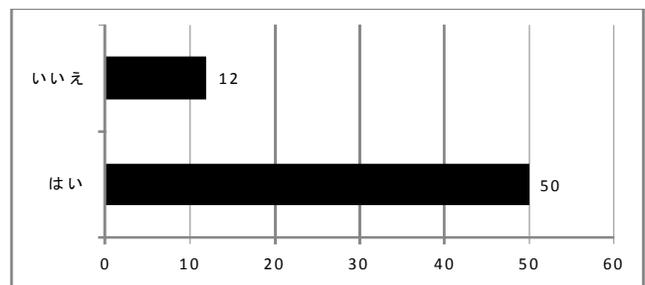


図5 「校長がとらえる学校課題や教職員の課題に即した研修が実施されましたか」

さらに、「はい」という学校について、リーダーシップを発揮した具体的な場面を調査したところ、ほとんどが校内研修の内容や方向性について校長が指示したり、指示をもとに研究部会等で計画を策定させるものであった。中には、校長が自ら体験談を伝えたり講師を担当する研修も見られた。

平成20年度の調査では、校長がとらえる課題に即した校内研修を実施した学校が32校、校長がとらえる課題と校内研修の内容との関連が明確でない学校が31校という結果であった。

今回の調査では、「校内研修の望ましい在り方」として、校長のリーダーシップをもとに推進した研修は、実施済みと実施予定合わせて26例であり、「校内研修の望ましい在り方」の中では、多い方ではなかった。しかし、校内研修にあたって実際に校長がリーダーシップを発揮した例は50校であり、平成20年度と比較すると増加している。

(4) 自己診断シートの活用状況

自己診断シートの活用について調査したところ、使用したのは12校、使用する予定が41校、使用しないは3校、その他が6校という結果であった（図6）。

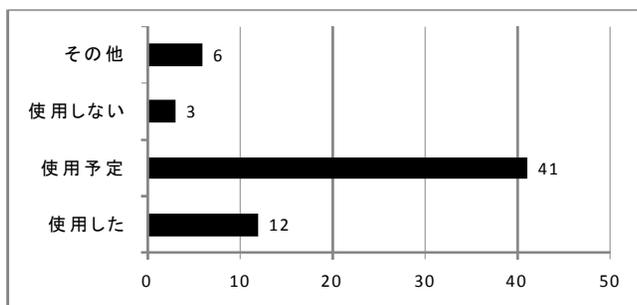


図6 自己診断シートの活用状況

使用した（使用予定を含む）自己診断シートの内容は、授業力が36例、生徒指導力が17例、特別支援教育関係が10例、危機管理能力が16例、その他が2例であった。その他では、自校にあったシートを活用している例や、教

育活動改善シートを活用した例が見られた。（図7）

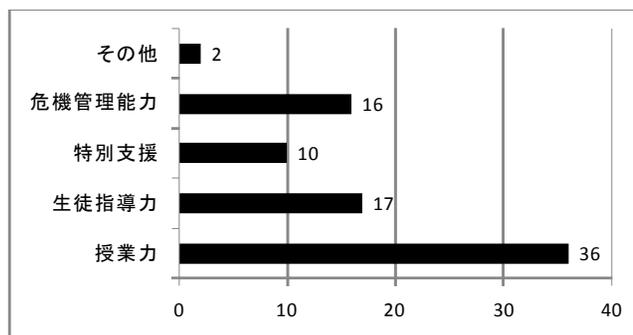


図7 使用した自己診断シートの内容

自己診断シートについては、「授業の視点が明確になり総合的に授業力の高まりが期待できる」「教師ひとりひとりが自らの授業を振り返り、自己の意識改革につながる」等、その効果についての積極的な感想や、「自己を振り返る機会になる。年度始めにすべてを記入させ集約している」「年2回実施。合わせて生徒の授業評価も実施し、変容を参考にしながら分析している」等、工夫して活用する例が見られた。

自己診断シートは校長の指導のもとに活用されるものであり、その活用が大幅に増加したことは、教師力向上に向け校内研修を充実させようとする校長のリーダーシップが強化されたことの証と見ることができる。

(5) 協働型学校評価と校内研修との関連

協働型学校評価の重点目標と校内研修との関連について調査したところ、目標達成への取り組みと研修の関連性が「おおいにある」が24校、「ある程度ある」が27校、「あまりない」が10校、「全然ない」が1校という結果であった（図8）。

協働型学校評価の重点目標として「あいさつ」を掲げた学校が数校見られたが、校内研修との関連では、「おおいにある」「ある程度ある」「あまりない」と3つの回答に分かれ、多様な受け止めがあることが浮かび上が

った。

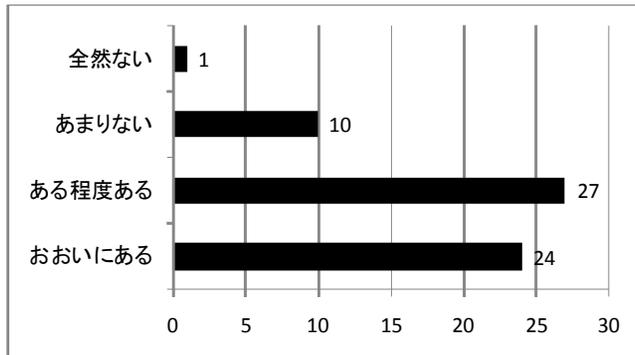


図8 協働型学校評価重点目標と
校内研修との関連

(6) アンケート結果から明確になったこと

アンケート調査を通し、教師力の向上を目指す校内研修についての今年度の取り組み状況が明らかとなった。

- ① 授業力の向上を目指す研修など、教師力の向上を目指す校内研修は、各校で積極的に行われており、その意義や重要性は少しずつ浸透している。
- ② 望ましい校内研修の視点や校長のリーダーシップの在り方など、教師力の向上に向けた校内研修の望ましい在り方について、各学校が自校の状況を踏まえながら工夫、改善する動きが広まっている。
- ③ 校内研修を実施するにあたって、校長が内容や方向性について指導した例が多く報告され、校長のリーダーシップの必要性への認識が広がっている。
- ④ 学校規模や職員の状況等の要因から、教師力の向上を目指す校内研修を実施する上での課題があり、より多くの実践例をもとに、教師力の向上を目指す校内研修の在り方についての考察を深める必要がある。

3 グループ研修（10月1日校長会）

7月のアンケート調査を踏まえ、10月校長会において、研修部と合同でグループ研修を実施した。

(1) 目的

教師力の向上を目指し各学校で実施した校内研修について、その内容及び効果や課題、校長のリーダーシップの在り方についての考察を深める。

(2) 内容

- ① 教師力の向上を目指した校内研修について、校長のリーダーシップのもと、どのように研修を進めているか、各校から報告する。
- ② グループの報告をもとに、教師力の向上を目指す校内研修の充実に向けた校長のリーダーシップの在り方、効果を高めるための方法、学校規模や地域、職員構成等におけるメリット、デメリット等について考察する。

(3) グループ編成

(※ 学校の規模別ごとに編成した)

- ① 富沢、広瀬、柳生、長町、宮城野、青陵
- ② 中野、将監、八乙女、一中、五橋、郡山
- ③ 七北田、台原、高砂、東華、八軒、中田
- ④ 将監東、高森、寺岡、住吉台、南光台
- ⑤ 五城、北仙台、三条、桜丘、二中
- ⑥ 吉成、南吉成、折立、茂庭台、館
- ⑦ 山田、西多賀、六郷、鶴谷、大沢
- ⑧ 向陽台、加茂、南中山、中山、田子
- ⑨ 上杉山、幸町、東仙台、西山、岩切、八木山
- ⑩ 蒲町、南小泉、七郷、沖野、袋原
- ⑪ 松陵、鶴が丘、南光台東、長命ヶ丘、愛宕
- ⑫ 生出、愛宕、広陵、根白石、人来田

(4) 主な協議内容

○ 大規模校

① 大規模校は教科担任が複数おり、互いに刺激し合ったり、教科部会や授業研究での意見交換など、授業力向上を進める上ではメリットがある。

② 一方、規模が大きくなると他に依存する教員が出てしまう。40～50代の教員で、初任の頃以降指導案を書いたことがない教員もいる。

また、年齢層による意識の差は、校内研修を進める上での大きな課題であり、積極的に授業研究に取り組むはたらきかけが必要である。

③ 学年のチームが大きくなり、チームの力を育てるのが課題。学年主任層をどう育てるか。また、学年主任層を育てる教頭をどう育てるか。校長のリーダーシップだけではなく、教頭や中堅層のリーダーシップの向上が必要である。核となる人材を育てることも校長の役割である。

④ 校長の姿勢として、研修の充実を図るために、教師ひとりひとりの授業を参観してその状況を把握することは大切。授業で気づいたことをメモし、校長からのメッセージとして伝えることなどは有意義である。

⑤ 研修の必要性をいかに伝えるか、納得させるかが校長の仕事。やる気が起きれば有意義な研修となる。

⑥ Off-JT（外部研修）とOJT（校内研修）を結びつけ、校内研修の充実を図っていく工夫も必要であろう。

○ 中規模校

① 教師ひとりひとりの力量を向上させないと、学校運営が成り立たなくなる。

② 校内研究と校内研修とを整理し、例えばひとり1授業を実施する場合は計画的に最後まで行うことが肝要。そのためにも校内

研修の年間計画を作成し計画的に行う必要がある。

③ プライドが高いベテラン教師を指導するのは難しいが、リスクマネジメントを考えさせることにより変化を期待できるかも知れない。

④ 職員が主体的に行動できるようなコミュニケーション能力を育て、ボトムアップを中心に実施したい。

⑤ 校長の職場づくりは重要で、職員ひとりひとりに自信をもたせることが大切。校長の一言は大きい。

⑥ 教師が夜遅くまで仕事をしており、指導案を検討する時間や研修の時間を取ることが難しくなっている。



○ 小規模校

① 小規模校は、1教科ひとりであり自分の授業を客観視できないデメリットがある。

② 一人一授業についても、年齢層の高い教員の研究意欲を高めることが課題である。

③ リーダーの養成が難しい。

④ 小規模校は、教科ごとの研究は難しいというデメリットがある。一人一研究方式で行っている。

⑤ 教科部会が成り立たないので、学校の課題に応じた共通のテーマを設定し、そのテーマに即した授業研究を教科単位で行っている。

⑥ 小中連携が行いやすいので、地区・学区全体での学力向上や生活習慣の確立を図る

仕組みづくり等工夫できる。

- ⑦ やる気のある教師とやる気の見られない教師は、年齢にはあまり関係ない（本人次第）。若くやる気のある教師の気持ちを大切にす。

4 今後の研究

グループ研修をとおし、教師力の向上を目指す校内研修について、各学校での工夫や実践上の課題が浮かび上がってきた。その中で、今後の課題となるのは以下の3点であり、12月校長会で全体に提示した。

- (1) 教師力向上を目指す校内研修の年間計画の作成
- (2) 教師力の向上と密接に関係するミドルリーダーの育成の在り方
- (3) 学校規模に応じた研修の在り方

(1)の校内研修の年間計画の作成は、学校課題に即した校内研修をとおして教師力の向上を図ることが、学校経営上極めて重要になっていることを踏まえ、校長の経営方針やリーダーシップのもとで校内研修を計画的に実施ことを目指すものである。

(2)の教師力の向上と密接に関係するミドルリーダーの育成の在り方は、教師力の向上を目指す際、教師一人一人の努力とともに、組織として、チームとしての機能を重視する必要があるということである。教頭も含め、ミドルリーダーを育成することは、学校組織の活性化を目指すものであり、組織として、チームとして教師力の向上を図ることにつながるものである。

(3)の学校規模に応じた研修の在り方は、大規模校、中規模校、小規模校それぞれに校内研修を推進する際のメリット・デメリットや課題があることを踏まえ、学校規模に応じた校内研

修の在り方について、さらに考察を深めるようにするものである。

研究部では、教師力の向上を学校経営上の大きな柱ととらえ、教師力の向上を目指す校内研修の在り方について、3年間研究を重ねてきた。この間の研究の成果が、各学校の学校経営に少しでも役立てば幸いである。

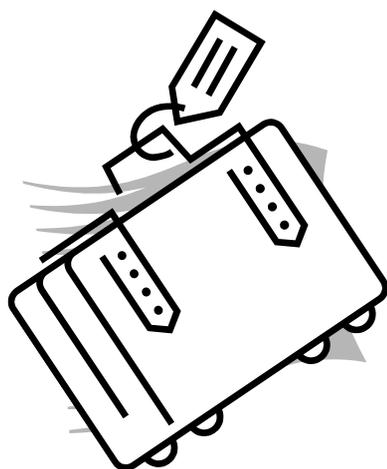
これまでの研究から、教師力の向上を目指す校内研修の推進にあたっては、校長のリーダーシップが極めて重要であることを再度確認した。今後も仙台市中学校長会全体でその在り方についての考察をさらに深めていきたいと考えている。

(2) 教育課題部

仙台市中学校長会

野外活動・修学旅行関係調査

まとめと考察



教育課題部会

I はじめに

平成24年度から野外活動及び修学旅行の日数や経費の基準がなくなり、各校の特色ある教育活動の中で独自に定めることができるようになります。それに先立ち、24年度以降の野外活動及び修学旅行の計画・立案の参考となるよう、教育課題部でアンケートをとりました。

その結果につきましては、先に10月の例会並びに校長会ホームページで中間のまとめをお示ししましたが、今般、教育課題部会での検討の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

この報告書では、アンケートの趣旨に則り、修学旅行及び野外活動の「1 特色ある教育活動としての位置づけ」、「2 ねらい」、「3 行き先」、「4 活動内容」、「5 経費」、「6 効果的な活動内容」および「平成24年度以降の野外活動・修学旅行に対する考え」の7項目について、ポイントを押さえてまとめました。

なお、個別の詳細なデータにつきまして、ホームページ上の「中間のまとめ」を参照していただきたいと思います。また、この報告書でのカテゴリ分け（「1 特色ある教育活動」や「2 ねらい」）については絶対的なものではありません。教育課題部会では一応の目安を示す意味で以下のとおり分けて、まとめと考察をしましたので、参考にしてください。

II 修学旅行

1 特色ある教育活動としての位置づけ

ねらい	
分類	数
社会性・共同生活	13
自主性・主体性	7
生き方・職業	7
課題解決	4
その他	10

手立て	
分類	数
体験・訪問	20
自主研修	5
その他	5

区分	
分類	数
自分づくり	18
総合	10
総+特	6
特活	4

- ・ねらい 以下のことが多くあげられている
「社会性・共同生活」の“特別活動”に係るもの
「自主性・主体性」、「課題解決」の“総合”に係るもの
「生き方・職業」の“自分づくり”に係るもの
(自分づくりは特活と総合の両方に係るが・・・)
- ・手立て
「体験・訪問」の職場体験や職場訪問、あるいは体験学習が多い
- ・区分 授業での区分は
「自分づくり」と「総合」が多い

2 ねらい

分類	特活に係る事項 (旅行・集団宿泊的行事)		集団生活・公衆道徳	50校	
			文化・歴史	34校	
			見聞を広げる	19校	
			触れ合い・信頼関係	30校	
			思い出	8校	
	総合に係る事項		能力・資質・態度	自主性・創造性・学び方	32校
			自己の生き方	勤労観・職業観・社会性	25校
			学習の在り方	発展学習・課題解決学習	9校
			学習の内容	国際理解・環境	3校

- ・「特活」(旅行・集団宿泊的行事)の項目を上げる学校が多い。
- ・「総合」では能力・資質・態度とともに、特活と関連の深い自己の生き方が多い。

3 行き先

- ・首都圏が大多数(58校:他 北海道2校, 関西4校)。→「中間のまとめ」参照
- ・また、首都圏に行ったときには「東京ディズニーリゾート」が定番になっている。

4 活動内容

- ・「自主研修・班別研修」はすべての学校が実施。
- ・「職場訪問・体験学習」は半数ほどだが、「自主研修・体験学習」の中に含まれるケースがあると考えられるので、これもほぼすべての学校が実施していると思われる。
- ・首都圏方面へ行く学校の半数が、「国会議事堂見学」を取り入れている。

内 容	校数
自主研修・班別研修	64校
職場訪問・体験活動	31校
国会議事堂見学	29校
芸術鑑賞	9校

5 経費 (いずれも約)

- ・最高額

MAX 80,000円

MIN 48,000円

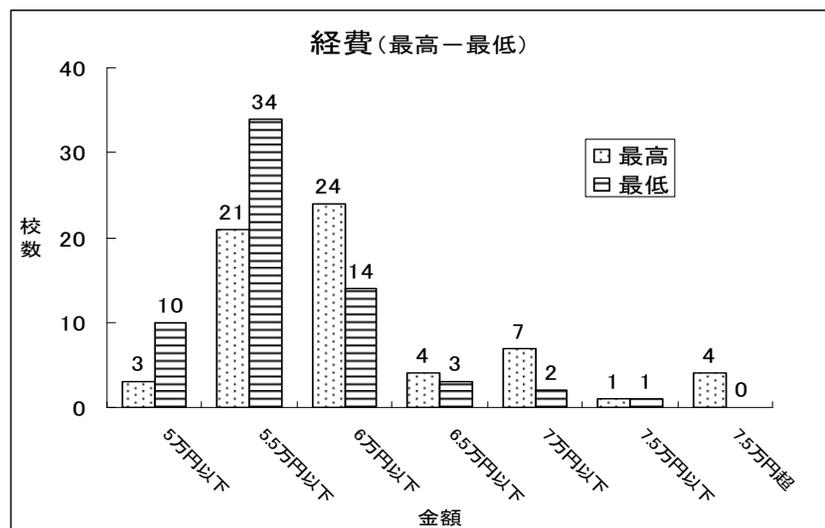
平均 59,000円

- ・最低額

MAX 75,000円

MIN 47,000円

平均 55,000円



6 効果的な活動

- ・訪問先が充実していたことをあげる学校が多い。

Ⅲ 野外活動

1 特色ある教育活動としての位置づけ

- ・修学旅行に比べ、体験学習（活動）および自分づくりを挙げる学校が多い。

自分づくり	25校
自主性	3校
体験学習	25校
共同体験	6校

2 ねらい

- ・野外活動であるので、体験学習を通しての学びをねらいとしている学校が多い。
- ・共に活動することから、集団生活や人とのかかわりに重きを置く学校も同数である。

体験学習	53校
集団生活・人間関係・マナー	53校
ふれあい	19校
自主性・自律性	16校
課題解決	9校
職業観・勤労観	3校
歴史・文化	5校
見聞を広げる	2校
その他（生き方など）	25校

3 行き先

- ・野外活動はすべての学校で、行き先は青森県を除く東北地方である。
- ・3日間にわたって、同一県に滞在する場合もあるが、岩手 44、宮城と山形が 25、秋田 が 20 の順になっている。
- ・盛岡市を自主研修として活動しやすい都市として 17校が訪問している。

4 活動内容

農業体験	43校	自主研修・班別研修	27校
漁業体験	18校	ボランティア活動	3校
林業体験	9校	職場訪問・職人訪問	2校
畜産体験	1校	調査研究活動	1校
野外炊飯体験	14校	芸術鑑賞・ミュージカル鑑賞等	5校
トレッキング・登山	9校	その他の体験活動	17校
踊り体験（よさこいなど）	9校		
カッター漕艇・カヌー	4校		
座禅	2校		

- ・行き先を東北地方での活動としており 66校中 43校が農業体験を活動の一つとしている。
- ・2日目、3日目の活動として、自主研修・班別研修を 27校が取り組んでいる。
- ・海辺に行くか、山に行くかで、漁業体験あるいは野外炊飯を行っている。

5 経費

- ・ほとんどの学校が2万～3万円の範囲である。最高額36,000円、最低額20,000円、平均額26,575円であった。

6 効果的活動

- ・体験学習，体験活動，民泊をあげている。

ここにグラフを入れます。
(修学旅行と同様5千円刻みでどうでしょう?)

IV 平成24年度以降の修学旅行・野外活動について

	現状維持	限度が必要	軽減・縮減等
経費についての意見	15校	7校	3校
日数についての意見	13校	0校	3校

- ・日数・経費ともに現状を支持する意見が多い。
- ・現在の経済状況及び公教育という観点からの意見と考えられる。

ご協力ありがとうございました。

私立高校入試に関するアンケート結果について

仙台市中学校長会 教育課題部

1 日程に関すること

(1) アンケート結果

分類した内容	件数
現状どおり	17
公立高校との関係	12
遅くてほしい	9
早くしない	3
遅くしない	1
早くしてほしい	0
その他	13

*1 ・公立高の前期選抜実施に伴い、変更が必要ではないか。

*2 ・出願日をそろえてほしい。

・推薦入試の日程が早すぎる。(3年担任が正月休みもとれない・・・「事務手続き」でも同意見あり)

(2) 考察

① 早めてほしいという意見は無し。むしろ早まることを危惧する傾向あり。

② 公立高校の入試制度変更に伴う対応について心配する意見が多い。

2 A・グループ分けに関すること

(1) アンケート結果

分類した内容	件数
分け方の工夫	10
現状のまま	9
グループ分け廃止	6
私立高校側の問題	5
複数回受験	3
全校受験可能	2
その他	12

*1 ・バランスよく分けてほしい(南北や別学・共学など)。

*2 ・その年によってグループが変わるので、受験校を選ぶの苦勞している。

・希望の2校を受けられない生徒が多い。

(2) 考察

① 基本的には高校側で考えることであるが、グループ分けについては変革を求める意見が多い。

3 事務手続きに関すること

(1) アンケート結果

分類した内容	件数
一層の簡素化を	16
「願書」や「出願者一覧」等の統一	15
これまで私立高校が進めてきた簡素化を評価	9
志望者や保護者が出願するシステムにしてほしい	7
早めに情報提供を	3
受験料の納入時期を早めてほしい	2
他の受験校の記載は調査書には不必要	2
出願日を遅くしてほしい	2
その他	16

*1 ・「その他」でも1件あり。(合計8件)

*2 ・「日程」でも同意見あり

*3 ・入試制度が複雑化しているので、分かりやすく

・一部の高校で日程が早まっているので統一してほしい

・合格後に優遇措置の追加などを突然告げないでほしい(「推薦」「その他」でも同意見あり)

(2) 考察

① 私立高校側の簡素化の努力を評価する声がある。

② その一方で一層の簡素化を希望している。

③ 願書等の書式の統一を望む声が多い。

4 推薦入学に関すること

(1) アンケート結果

分類した内容	件数
スポーツ推薦について	15 *1
妥当	6
校長推薦について	6 *2
日程が早まらないよう	4
基準を明確に	3
自己推薦だけにしてほしい(スポーツ特待など)	3
その他	17 *3

- *1 ・学校を経由しないで進めることはやめてほしい(保護者, 本人, 外部コーチなど…3件)
 ・校長同士の話し合いで進めてほしい(部活の顧問レベルではなく…4件)
 ・校長推薦が入ることに疑問
 ・運動能力だけ評価し, 生活態度を見ないで特待生を薦めるのはやめてほしい
 ・生徒の勧誘はルールに則って(…4件, 「推薦」のその他, 「事務手続き」, 「その他」でも同意見あり)
- *2 ・*1以外では, 校長が推薦した以上は調査書を簡素化してほしい
- *3 ・唐突に特待生, 授業料免除などの話が出てくるのはおかしい。正規の手続きを(…3件)
 ・日程の統一を
 ・救われる生徒もいてありがたい

(2) 考察

- ① スポーツ推薦, 特待生にかかわる要望が非常に多い。
- ② 私立の独自性のため推薦制度を支持する声もある。

5 その他

(1) アンケート結果

分類した内容	件数
個別の説明会をなくしてほしい	6
他校の推薦決定者や成績上位者への唐突な特待生勧誘	6 *1
学費や受験料などの減免対策を	5
インフルエンザ等への対応をしっかりとお願いしたい	4
入試制度が変わりすぎる	3
説明会やオープンスクールの日程	3
引率をなくしてほしい	2
入試問題は学習指導要領に則って	2
その他	12 *2

- *1 ・「事務手続き」, 「推薦」についてでも同意見あり。
- *2 ・インターネットの活用を
 ・部活特待で本人・家庭への直接打診(「事務手続き」「推薦」でも同意見あり)
 ・合否ラインを
 ・特技選考では校長が知らないうちに進むこともあるので, 校長会として対応マニュアルを(中学校側の課題として)

(2) 考察

- ① 教員対象の個別の入試説明会の廃止を要望する声がある
- ② 特待生勧誘などは明確なルールのもとで行ってほしいとの声が強い。
- ③ 多種多様の意見が出されている。

60校もの校長先生からご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

(3) 人 事 部

		20～		25～		30～		35～		40～		45～		50～		55～		60～		計		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
1	中			3		2	2		1	3	4	5	6		1		1			14	14	28	
2	二			1				1		3		3	3	4	4	1	2			13	9	22	
3	三							2	2	3	2	3	2	2			3			10	9	19	
4	上	杉				1		1		3	1	4	5	3	2	1	3			12	12	24	
5	五	山城	1			2	1		1		2		4	2	2	2	1			10	8	18	
6	宮	城野			1	1		1	2	9	2	3	4	2	2	3	1			19	12	31	
7	東	仙台			3	1	1	1	1	3	1	4	3	4	3					16	9	25	
8	東	華			1	1		2	2	4	1	3	1		6	2	1			12	12	24	
9	五	橋			1	2	2	3	2	6	3	4	2	2	1	2				16	14	30	
10	愛	岩						1		1		2		2	1	1	2			6	4	10	
11	八	軒			1		3	3	2	3	1	5	2	4	1		1			17	10	27	
12	南	小泉	1		2		2	2	1	1	4	2	3	2	2			2		15	9	24	
13	長	町		1	1		3	2	2	1	2	2	6	5	4	4	1	1		19	16	35	
14	中	田		1	1	5	1	3	1	6	1		3	1	1	1				13	12	25	
15	中	六郷		1	2		2	1	1	2	2	1	3	3						11	9	20	
16	七	郷			4		2	1	1	1	2	3	3	4	1					13	9	22	
17	高	砂		1	1	1	1	2	2	2	3	4	3	3	2					13	14	27	
18	岩	切	1		1	1	1	5	1	4		1	2	3		1	1			13	9	22	
19	西	多賀				1	1	2		2	1	3	1	2	3		1			6	11	17	
20	生	出						1	1	2	1	1	1							3	4	7	
21	郡	山		1		1	3		3	2	4	3		6	1	2	1			16	11	27	
22	台	北原			2	1	2	1	2	3	3	4	3	3	2	1	1			15	13	28	
23	北	仙		1				2	1	1	3	2	1	3		1				8	7	15	
24	鶴	谷			1			1	1	3	1	2	3	1	1	3				11	6	17	
25	八	木山	1				1	1	1	1	3	5	2	3	1		1			12	9	21	
26	中	山					2		2	1	5	5	2	4	2	1	1			15	10	25	
27	山	田	1					1	1	6	3	3		1	3	1				7	10	17	
28	蒲	桜	1		1		1	2	1	6	2	2	1	3	2	1	1			12	14	26	
29	中	野				1		1	2	3	2	1	5	3						9	9	18	
30	袋	原			1	1	2	2	2	3	4	4	5	2	1	3	1			17	14	31	
31	折	立			1	2		2	2	2	2	4	2	2	1	1				11	6	17	
32	幸	野			2		2		1	2	1	6	4	2	1	3	1			10	9	19	
33	沖	野	1	1	1	2	1	2	2	1	2	2		4	1	1				15	10	25	
34	人	来				2			2	1	1	1		1			1			5	5	10	
35	旗	立				1		1	1	1	1	1								3	2	5	
36	西	山		1	1	1		3	1	1	3	2	3	2	3	1				10	12	22	
37	広	瀬			1		2	3	2	2	5	4	5	1	9	2	1	2		25	14	39	
38	大	沢			2	3				1		5	3	3	1	1	2			11	10	21	
41	吉	成	1				1		1		1	1	3	3		1	2			8	6	14	
42	秋	保			2		1		1		1		2		1					5	2	7	
43	七	北					1		2	1	1	2	5	2	5		5			14	10	24	
44	根	白								3	1	1	1	1		1				6	2	8	
45	八	乙						1	1	5	9	6	3	5						13	17	30	
46	将	監		1	2			3	2	3	2	8	1	3	2		5			19	13	32	
47	南	光				1		1	1	2	2	2	2	4	1	1	1			11	8	19	
48	向	陽	1				2	3	3	1	2	4	3	1	1	1				11	11	22	
49	加	茂		2			1	1	1	4		1	3	3	2	1				10	9	19	
50	将	監						3		1		4	1	5	5		1			10	10	20	
51	寺	岡				1		1		1	2	1		4		2				6	5	11	
52	南	光	1		1		1	1		3	4	3	1	1	1					10	8	18	
53	南	台			1		1	1		1	1	2	3	1		1				6	6	12	
54	長	命				1		1		3	1	2	1		2	1				7	5	12	
55	富	沢	1		2	4	1	1	6	2	6	3	4	5	4	1	2			24	18	42	
56	南	中	1		1	4	1		3	1	1	2		2	3	3	2			12	12	24	
57	茂	庭		1	1				1	1	2	5	2	1	1	1				9	7	16	
58	高	森				2		1	3		1	4	3	2	1		1			10	8	18	
59	田	子		1	1	1		1	2	3		3	2	2						8	9	17	
60	住	吉			2	1			2		4	3	3	1	1		2			12	7	19	
61	南	吉			1				3	3	1	1		4	5		1			9	9	18	
62	松	陵			1			1		1	3	1	1	1	2					5	6	11	
63	柳	生		1	4	2		4	3	4	5	3	3	5	2	1	1			18	20	38	
64	館					1		1		2	1	3	1	3	1	1				10	4	14	
65	広	陵			3		1		1		1	1		1						6	2	8	
計			11	15	56	44	44	54	85	76	138	128	190	137	163	89	48	57	0	0	735	600	1335
男女計			26		100		98		161		266		327		252		105		0		1335		
%			1.95		7.49		7.34		12.06		19.93		24.49		18.88		7.87		0.00				

	国語		社会		数学		理科		音楽		美術		保体		技家		英語		特支		計		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
1	一	中	1	3	3	1	4	1	3		1	1	2	1		1	1	3		2	14	14	28		
2	二	中	1	1	1		3	2	1	1		1	2		1		2		3	2	13	9	22		
3	三	中		3	2		3		1	1			1	1	1		2	1		3	10	9	19		
4	上	杉山	1	2	3		3		2	1		1	1	1	1	1	1	2		3	12	12	24		
5	五	城野	1	1	2		2		2	1		1	1	1			2		1	2	10	8	18		
6	宮	城野	3	1	4		3	1	3		1	1	2	2	1	1	1	4		2	19	12	31		
7	東	仙	1	2	2	1	4		2	1		1	3	1	1	1	1	2		1	16	9	25		
8	東	華		3	2	1	2	1	3		1	1	1	1	1	1	3	1		2	12	12	24		
9	五	橋	1	3	3		3	1	3		1	1	2	2	2	1	1	2		2	16	14	30		
10	愛	岩	1	1		1	1		1			1			1		2				6	4	10		
11	八	軒	1	2	3		5	1	2	1		1	1	2	1	1	2	1		1	17	10	27		
12	南	小	1	2	3		3		2	1		1	2	1	1	1	2	1		1	15	9	24		
13	長	町	2	2	2	2	3	1	3	2		2	1	1	2	1	4	1		2	19	16	35		
14	中	田	1	3	2		2	3	2	1		1	1	2	1	1	2	1		1	13	12	25		
15	六	郷	3		1		1	2	1	1		1	1	1	1	1	1	2		2	11	9	20		
16	七	郷	1	2	3		3		2		1		1	1	1	1		3		1	13	9	22		
17	高	砂	2	1	2	1	2	2	2	2	1		2	2	1	1	1	2		2	13	14	27		
18	岩	切	2	1	2		2	3	1	1		1		1	1	1	3		2		13	9	22		
19	西	多		2	2		2	1	1		1	1	1	1	1		2		2		6	11	17		
20	生	出	1		1		1		1			1					1				3	4	7		
21	郡	山	1	2	3		3	1		2	1	1	1	2	1	2	2		2		16	11	27		
22	台	原		3	2	1	4	2	3	1	1		1	1	1	1	3	2		1	15	13	28		
23	北	仙	2		1	1	1	1	2		1		2				2		1		8	7	15		
24	鶴	谷		2	2		2	1	2		1	1		1	1		1	1	2		11	6	17		
25	八	木	1	2	2	1	2	2	2		1		1	1	1		2	1		1	12	9	21		
26	中	山	1	2	2		4		1	1	1	1	1	2	1	1	2	2		1	15	10	25		
27	山	田	1	1	1	1	2	1	1	1		1	1	1	1		2		1		7	10	17		
28	蒲	町	1	2	3	1	2	1	3		2		1	2	1		2		3	1	1	12	14	26	
29	桜	丘	2		1	1	2		2			1	1	1	1	1		3		2	9	9	18		
30	中	野	1	4	3		4	1	2	1		2	1	2	2		1	2		2	17	14	31		
31	袋	原	1	2	3		2	1	2				1	1	1		1	2			11	6	17		
32	折	立	1	2	1	1	2	1	1		1	1	1	1	1		1	2		1	10	9	19		
33	幸	町	2	1	2	1	2	2	3		1		1	1	1	1	2	1		2	15	10	25		
34	沖	野	2	1	2		3	1	1	1		1	2	1	1	1	1	2		2	13	9	22		
35	人	来		1		1	1	1	1		1				1		2		1		5	5	10		
	旗	立		1			1		1			1		1							3	2	5		
36	西	山		3	2	1	3		1	1		1	2	1	1		3	1	1		10	12	22		
37	広	瀬	3	2	3		6	1	5	1		2	1	1	2	2	1	1	3	3	25	14	39		
38	大	沢	1	2	3		2		2		1	1	1	1	1		3	1	1		11	10	21		
41	吉	成	1	1	2		1		2		1		1				2	1	1		8	6	14		
42	秋	保	1		1		2		1						1		1				5	2	7		
43	七	北	4		2	1		3	3		1		1	1	1	1	2	1	1	1	14	10	24		
44	根	白	1		1		1		1		1	1					1				6	2	8		
45	八	乙		4	2	1	3	2	3		2		1	1	2	1	1	2	3	1	1	13	17	30	
46	将	監	2	2	3	1	3	2	3		1	1	1	2	2	1	1	2	3	1	1	19	13	32	
47	南	光	2	1	1	1	3		2	1		1	2		1		2	1	1		11	8	19		
48	向	陽	1	2	3		2	1	1	1	1		1	1	1	1	1	2		2	11	11	22		
49	加	茂		3	2		1	2	1	1		1	1	2		1	1	2	1		10	9	19		
50	将	監		3	2		2	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1		2	10	10	20		
51	鶴	が	1		1		2		1	1		1					2		1		6	5	11		
52	寺	岡		3	1	1	3		1	1	1		1	2	1	1	1	1			10	8	18		
53	南	光		1	1		1	1	2		1		1		1		2	1			6	6	12		
54	長	命		2		1	2		1		1		1		1		2		1		7	5	12		
55	富	沢	2	3	5		6	2	4	2	1	1	2	2	1	1	2	3	1	2	24	18	42		
56	南	中		3	2	1	3		2	1		1	1	1	1	1	2	2	1	1	12	12	24		
57	茂	庭	2		1		1	1		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	7	16		
58	高	森		2	2		2		2		1		1	1	1		2	1	2		10	8	18		
59	田	子		2	1	1		2	1	1	1		1	1	1	1	2		1	1	8	9	17		
60	住	吉		2	2		2	1	1	1	1		1	1	1	1	2		2	1	12	7	19		
61	南	吉	1	1	1	1	2		2	1		1	1	1	1	1	1	1	1	2	9	9	18		
62	松	陵		1	1		1	1	1	1		1	1				1		1		5	6	11		
63	柳	生	2	3	4		1	5	4	1		1	2	2	1	1	2	3	2	2	18	20	38		
64	館			1	2		2		2		1		1		1	1	1	1	1		10	4	14		
65	広	陵		1	1		1	1					1				1		2		6	2	8		
計			64	109	123	26	142	62	110	41	21	47	15	41	81	57	55	41	75	105	49	71	735	600	1335
男女計			173		149		204		151		68		56		138		96		180		120		1335		
%			12.9588		11.161		15.2809		11.3109		5.09363		4.19476		10.3371		7.19101		13.4831		8.98876				

調査4

現在校勤務年数別人数

H22

	0年		1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年		10年		11年		12年		計		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
1	一	中	5	7	1	1	3	1	3	4	2	1																14	14	28	
2	二	中	3	3	4	2	3	3	1					2	1													13	9	22	
3	三	条		1	2	1	2	1	3	2	1	3	1		1	1												10	9	19	
4	上	杉	3	2	2		4	4	3	1		2		2		1												12	12	24	
5	五	城	1	2	3	3	1	1	3		1	1	1		1													10	8	18	
6	宮	城	6	2	2	2	5	1	2		3	4	1	1	1		1											19	12	31	
7	東	仙	5	1	3	2	1	3	4		1	1		2	1		1											16	9	25	
8	東	華	1	2	2	2	3	4	1		1	2	3	1		1	1											12	12	24	
9	五	橋	4	3	2	2	3	1	1	1	2	3	4	1		2												16	14	30	
10	愛	宕	1		1	1	1		2	2				1	1													6	4	10	
11	八	軒	2	2	3	2	3	4	4	1	1		2		1	1	1											17	10	27	
12	南	小	4	2	2		3	1	1	1	2	4	1		1	2												15	9	24	
13	長	泉	2	2	5	1		4	5	3	3	3	1	3	3													19	16	35	
14	中	田	4	4	1		2	5	4	1		2	1					1										13	12	25	
15	六	郷	2	3	2	1	4	1			3	2				2												11	9	20	
16	七	郷	4	3	2	1	5	1		2		1	1	1	1													13	9	22	
17	高	砂	2	4	2	4	4	1		1	2	2	1			2	1											13	14	27	
18	岩	切	4	3	2	1	2	2	2		1	2	2			1												13	9	22	
19	西	多	2	4	1	2		2	1	1	2	1					1											6	11	17	
20	生	出		1	1	1			1	1	1	1																3	4	7	
21	郡	山	3	1	1	1	2	2	4		2	1	2	2	1	3	1	1											16	11	27
22	台	原	3	3	3	3	1	3	1	2	4	1	2	1			1											15	13	28	
23	北	仙	2	2	1	3	1	1	1		1		1	1			1											8	7	15	
24	鶴	谷		1	3	1	2	2			2	1	3			1	1											11	6	17	
25	八	木	2	1	2	1	1	3	2	1		1	2		3	2												12	9	21	
26	中	山	6	5	2		4	3	2		1	2																15	10	25	
27	山	田	2			5	1		2	1	1		1	2		2												7	10	17	
28	蒲	町	4	1		1	3	9	1	1	1		1		2	1		1										12	14	26	
29	桜	丘	3	2	1	1	1	1	1	1	2	2		2	1													9	9	18	
30	中	野	5	3	2	3	4	3	3	1	1	2	1		1			2										17	14	31	
31	袋	原	2	1	3	2	1	2	2	1			2		1													11	6	17	
32	折	立	2	2	4	2	1	3	1	1	1	1		1	1													10	9	19	
33	幸	町	3	2	2		4	5	2	2			1	1	2		1											15	10	25	
34	沖	野	4	1	2		3	3	1	1	1	3	2	1														13	9	22	
35	人	来	1	2	1	1	1		1	1					1				1									5	5	10	
36	旗	立	1		1	1		1	1																			3	2	5	
37	西	山	5	3	1	1		2	1	4		1	2		1	1												10	12	22	
38	広	瀬	6	2	5		3	3	4	1	2	1	2	1	2	3	1	1		2								25	14	39	
39	大	沢	2	2	2	2	4	4			1		2				2											11	10	21	
40	吉	成	1		4			1		3			1		1	2	1											8	6	14	
41	秋	保			1	1	3			1				1														5	2	7	
42	七	北	2	2	2	1			3	2	4	3	2	2	1													14	10	24	
43	根	白			2		1	1	1				1	1	1													6	2	8	
44	八	乙	2	5	4	3	2	3	2		2	2	1	1		3												13	17	30	
45	将	監	5	4	4	1	4	4	3	1	1		1	1	1	1	1	1										19	13	32	
46	南	光	2	3	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1		1										11	8	19	
47	向	陽	2		4	1	2	4	1	2	1	1	1	1						1		1						11	11	22	
48	加	茂	1	2	1		2		2	1	3	2	1	2		1		1										10	9	19	
49	将	監	1	3	2	1	3	1	1	2	1	2	2	1														10	10	20	
50	鶴	が			1	2	2	1	1		1			1		1		1										6	5	11	
51	寺	岡	3	1	1	1	1	2	1	2		1	2	1	2													10	8	18	
52	南	光	1	1			3	1		1			1		1	1	2	1										6	6	12	
53	長	命	3		1	2		1		1	1			1	1				1									7	5	12	
54	富	沢	3	4	3	6	7	3	3	3	1	1	4		2	1	1											24	18	42	
55	南	中	1	1	2	3	1	2		2	1	3	3		1		3	1										12	12	24	
56	茂	庭	1	2	4		1	1	1		1		1	1	1	1		2										9	7	16	
57	高	森	1	2	1	2	2		1		1		2	1	2	1		1			1							10	8	18	
58	田	子		2	1	1	1		1	1	1	3	2	1	1	1	1											8	9	17	
59	住	吉	2	2	2	2	2	1	1		1		2	1	2	1												12	7	19	
60	南	吉			3	2	1	2	1	3	2	2			2													9	9	18	
61	松	陵		1	2	1	1				1		1	1		2		1										5	6	11	
62	柳	生	5	4	3	3	1	5	1	2	2	1	4	1	1	3	1	1										18	20	38	
63	館				2	1	1	3	2		2		1		1		1											10	4	14	
64	広	陵	3				1	1	1						1		1											6	2	8	
計			150	124	130	92	128	128	100	67	74	71	79	45	47	45	26	21	0	3	1	2	0	1	0	0	0	1	735	600	1335
男女計			274		222		256		167		145		124		92		47		3		3		1		0		1		1335		
%			37.28		30.2		34.83		22.72		19.73		16.87		12.52		6.395		0.408		0.408		0.136		0		0.136				

1 【人事異動に関するもの】

- 調整会において部活動が全面に出すぎるように思う。
- 異動に部活動は考慮しないとあるが、新学習指導要領での部活動の位置づけの変更、学校内での部活動の教育的役割を十二分に認識し、部活動設置の状況、専門部や大会運営、専門性を有した教諭の有効な配置も配慮してほしい。
特に、指導者の高齢化も進み、専門部の役員として運営にあたってくれる人材が少なく、専門性を活かされない現状がある。
- 初めて「行政区制」を導入したが、昨年度からの調整会の進め方の見直し（過員教員の扱い、欠員・要転の穴の扱い等）と相まって、異動の連結が多くなったように感じる。
- 主幹教諭の昇任は、校内での昇任に限るようにしてほしい。（異動してからの昇任では、本人にも当該校にとっても未知数な部分が多すぎて、教務としての初業務が厳しすぎるような気がする）
- 今後人事関係について勉強していきたい。
- 新学習指導要領により、授業時数の増加する教科への人的手当を考えてほしい。
- 生徒指導上心配が多い若林区への新任の配置が多い気がする。本校でもこの4年で5人配置された。もう少し経験のある教員が子どもたちの指導に当たってもらえればと痛感している。
- 調整会で繋がった後で、必要人事で行政教員に異動するのは理解できるが、中等教育学校も優先するのであれば、調整会の段階で当該教員は外しておいてほしい。
- 理科の教員が2名転出し1名しか転入がなく、4月5日まで講師を待ったが目途が立たず急ぎよ数学の本務教員を理科の免許外担任としてスタートした。最低でも学校規模に合った人数の確保を願いたい。
- 本務教員の高齢化に伴い、学級担任に講師を多く配置している。本務教員の年齢構成の適正化をお願いしたい。
- 行政に異動する教諭に代わる職員の確保が必要であり、候補者も早めに分かるようにしてほしい。
- 個人の希望を優先する人事調整は時代遅れだ。
- 年齢・男女差等のバランスを見ながら市教委中心に動かす方が良いのではないかと。少なくとも「希望が通るのが普通」という基準を教員がもつのはおかしい。イメージを変える必要があると思う。

2 【地区歩き制度に関するもの】

- 「同一行政区に最大16年」というルールは、旧方式の人にも適用されるのか、また、「同一行政区内での転任はできない」というルールはどうか等が要項に書かれていなかったのがわかりにくかった。

- 行政区での異動が今年度から開始となったが、若・宮区についての流れは少しでき始めたが、太白区も南の方は、入の部分では課題のまま。何年間かこの形で実施してみて再度検討改訂は必要。→ 人事異動（行政区）の動向の年度ごと確認調査集積について
- 講師の割合が多く、一地区南西部の希望者がいないということでの措置のようだが、学校運営上厳しい。「若・宮区」だけでなく、一地区南部も何とかならないか。

3 【加配に関するもの】

- 学力向上と言っている割には講師の配置が遅い。（免外解消・初任者校外研修後補充の非常勤講師の配置）
- 病休等による途中での代替講師の配置を迅速に願いたい。
- 中学校の免許外教科担当解消
- 大規模校であっても教科によっては「1名担当では足りない、2名では多い」という場合があるので、足りない分を免外解消非常勤講師を配置してもらうのは大変ありがたい。
- 免外解消の加配等、今後の教科時数増に対応した人事を考えてほしい。
- 非常勤講師が多いと校務分掌にさしつかえるので、本務または常勤講師を希望。
- 免外解消のための非常勤講師については、さらに手厚い配当をお願いしたい。

4 【学級編制弾力化に関するもの】

- 弾力化対象校にはならなかったが、少人数指導非常勤講師を配置してもらいありがたかった。
- 1年弾力化 → 2年通常になり 30人学級 → 40人学級になるのは問題

5 【定数に関するもの】

- 少子化を受け、全体的に学校規模は縮小傾向にある。その際1学級減で定数2名減になる場合がある。できれば1名減にできないか。
- 平成23年度から理科の時数が増加するが、現状だとどう工夫しても教諭数が不足する。

6 【その他】

- 非常勤講師は免許状保持（当該教科）者にしてほしい。
- 新任教諭の採用者数を増やし、欠員講師を少なくする方策に積極的に転じていくことをさらに期待したい。
- 非常勤講師の種別、人数が今後も増加傾向にあると思われるが、その配置が難しい状況であるようだ。学校運営上の講師の人材育成上も問題が大きい。市教委として現状を把握し、改善の方策を考えていくべきではないか。

- ・ 人事（採用・転任）と研修（ライフステージに応じた研修等）の一体化を促進する市教委としての人材育成プログラムを提示し、校長会研究プランとの連携・協議を進めるよう期待したい。
- ・ 小規模校で教科指導がきちんとできない教員がいると学校の信頼に大きく関わる。
- ・ 小規模校への初任者配置をしない方向で考えてもらいたい。
- ・ 正教員の後任が講師となり、学校運営上厳しい組織体制だった。
- ・ 転任に関する具申書を不要にしたことは事務簡素化の上で大変よかった。
- ・ 市費再任用職員（用務技師）の勤務時間が週30時間になっているが、週35時間程度に増やせないものか。（良心的な技師だと朝夕超勤状態で動いてくれ、超勤届を出すようにすすめても遠慮する。逆に不在時は他教職員に負担）
- ・ 小規模校なので免外解消非常勤講師配置はありがたい。
- ・ 講師を少なくするようお願いしたい。
- ・ 通勤距離や通勤時間が多くかかる教職員へは、転勤の際に配慮が必要ではないか。
- ・ 学校活性化のためには意欲的な若い教員の力が必要。講師を育てるよう心掛け取り組んでいるので、計画的に採用してほしい。
- ・ 財政難の折、35人学級がむりなら、せめて37～38人学級の実現を。
- ・ 20代・30代の若手が少ない。（全市的にみてどうなのか）
- ・ 在外教育施設の日本人学校に行っている教諭の代わりに正規当該教科の教諭が配置されている。これを日本人学校加配1名とするカウントの仕方が釈然としない。人数的には現状復帰で当然だが、日本人学校加配1名とはなんだろうかという疑問。
- ・ 通常学級が全学年で9学級だと教員定数14名、特別支援1学級、従って+1名、合計教員数15名。少人数加配1名で教諭数合計16名。ただし教科のバランス上数学も英語も少人数はきわめて難しい。極力実施の努力はするが生徒の実態、保護者のニーズを考えた場合は純然たる少人数加配がほしい。
- ・ 正規の教諭が昇任し、その後講師が配属された。計画的な人事配置がなされているのか釈然としない。欠員講師というのはよほど、不測の事態が生じた時に配当される性質のものではないかと思う。ちなみに全市的に何校ほど正規の教諭がどういう状況で異動となり欠員講師が配当されたケースがあるのか知りたい。
- ・ 新学習指導要領の移行措置に伴い、理科の授業時数が相当数増加する。しかし理科の免許をもった講師がほとんどいないということで各学校は大変。来年度理科についてはまた時数増となり、人事面での苦しさが出てくる。全市的な体制を考えていかないと本務教員が免外で理科を教え、その本務教員と同じ免許を持っている講師を配置するという現象が今年度以上に出てきてしまう可能性があると思う。

(4) 行財政部

「地域連携のための費用」に関するアンケートまとめ

1 平成21年度地域等連携費の活用の有無について、該当する方を○で囲んでください。

「あり」と回答校=30校 ・ 「なし」と回答校=34校

2 (上記1で「あり」と回答された場合お答えください。)

支出した内容と金額をご記入ください。30校の支出件数

支出区分	支出内容	支出金額	件数	
(1) 謝礼	(1) 謝礼	外部講師への謝礼・笹竹謝礼 等	1000円～1995円	3件
(2) 弔意	(2) 弔意	保護者・地区役員等への弔意金	3000円×各校件数	32件
(3) 見舞	(3) 見舞	不明		3件
(4) その他	(4) その他	地区新春懇親会・連町運動会	3000円～6000円	2件

支出区分

- (1) 謝礼
- (2) 弔意
- (3) 見舞
- (4) その他

※数字を記入してください。

3 地域等連携費以外で校内会計 (PTA会費・文体費等) から出費しているものがあればご記入ください。

「あり」と答えた学校数=15校 「なし」と答えた学校数=49校
 下記には全部書ききれないので主なもの記載した。(地域連携の観点でか回答者が悩む?)

支出内容	支出金額	支出の支払元
農地借用謝礼	5,000円	文化体育
夏祭り・運動会祝儀(2地区)等	8,000円	PTA会費
社会を明るくする会助成金	3,000円	PTA会費

※上記の設問は PTA 会費・文体費等からやむなく地域連携費等に支出しているものがあれば記載するという意味である。ここでは合唱コンクール審査員謝礼及び花束代もあったが割愛させていただく。

4 地域連携に関わることで、校長が自己負担している支出(手出し)の有無について、該当する方を○で囲んでください。

「あり」と回答=43校 ・ 「なし」と回答=22校 ・ 不明=1校

※43名の自己負担額の総計額は450,850円。一人あたりの平均手出し額は10,485円となる。手出し額の最高額は49,000円。最低額は500円であった。

5 (上記4で「あり」と回答された場合お答えください。) 支出内容と支出した金額をご記入ください。

支出内容	支出金額	個人支出下限・上限金額
町内会・消防団新年会 会費	1000円～5000円	500円～49,000円
交通安全協会新年賀詞交換会等	5,000円	
学校評議員会懇親会	3,850円	
連合町内会総会会費・祭り等	8,000円	

6 「地域連携のために個人が支出すること」について意見があればご記入ください。

- 公人として出席しているので、個人負担はすべきではない。(11件)
- 飲食を伴う場合は仕方ないと思っているが・・・。(11件)
- 学校経営上参加しなければならず、出費も多いので、地域連携費の見直しを是非お願いしたい。(地域連携費の支出幅の拡大をお願いしたい。)(14件)
- 校長の裁量費、交流費等の設定をしてほしい。(12件)
- その他、飲食を伴うものは仕方がない。(1件)

回答の98%は校長業務として地域連携上出席する会合で個人負担は望ましくないと回答。

7 その他の学校運営に係わる諸経費(市の配当予算も含む)に関わることに困っていることがあれば記入下さい。(7については、アンケート結果データ参照)

題 字 仙台中学校長会長 高 橋 泰 筆

発 行 平成23年 3月 1日

発行者 仙台中学校長会
会 長 高 橋 泰

編集者 仙台中学校長会
情報部会